大震火災は我國に取つての大破壞であつて、その創痍の癒ゆるは事容易にあらず、我等の一大發奮と一大努力を要すること勿論である。或は復興の前途を危み或は財界の將來を悲觀し、或は國運發展を懸念する者のあるも無理からぬことで、これをわが國民經濟の上より考察するに東京横濱等の罹災地市民の經濟に直接も大なる惡影響を及ぼすのみならず、我國全般の國民の上に間接に少なからぬ負擔を荷はしむることゝなるは已むを得ざる結果であつて、我國社會全般の一大不幸として悲觀材料と爲さざるを得ぬのである。

斯く觀察し來たると我國の將來は甚だ心細く感ぜられ帝都の復興もまた危ぶまれる次第であるが更にまた、ひるがへつて考ふるに我國が今日有するところの實力及び我國民の意氣と智力とを以て復興の事に當るならばこの甚大なる創痍を癒やし帝都の復興を見るのみならず進んで我國の經濟的發展即ち全國にわたる經濟復興を見ることが必ずしも難事でないと思はるゝのである。世には往々にして「復興景氣」なる言葉を以て今にも一大景氣が發生し國民全體が好景氣に浴するもの〻如く說くものがある。即ち經濟界の前途を悲く樂觀して何もかも景氣が好くなるもの〻如く解するものがあるが之は皮相の觀測であつて決してしかく容易に景氣が好くなり、何もかも好調にのみ向ふものとのみ思ふは誤りである。若し我國の經濟界の大勢が順調の時であつて、たとへば大正七八年頃の如き時であれば、大震火災の經濟的影響も比較的輕くすみ、その創痍も比較的早く癒するのであるが、今日はさなきだに經濟界が惡く、世の不景氣が甚しく國民のふとくろあひが惡

いときであるから勢ひ樂觀に傾くことは許さぬのである。しかしながら今云ふ如く我國の總べての力の上より考へ極度の悲觀をなすべきものではない、漫然と「復興景氣」なる浮いたる言葉に信を措き過ぎて、徒らに前途を樂觀することを慎めばよろしいのである。即ち極端なる悲觀も誤りであると共に極端なる樂觀もまた誤りである、我國は大震火災に依つて悲觀すべき狀態に陷つたには相違ないが、之を人と時の力に依りて歩一歩と回復せしめつゝあるのである、卽ち時日の經過によりて――また人々の努力によりて日一日と復興への歩みを運びつゝあるのである。人々が堅忍して敢然と邁進するならば帝都の復興を見るのみならず全國の經濟的復興をも見ること必ずしも難事でないと思ふ。

關東大震火災の直接有形の損失は四十八億圓と稱せられ、我國の國力の上より見れば一大損失であるが、しかし之れを元の通りに回復せしむるに矢張り四十八億圓を要するかと云ふに必ずしもさうではない、四十八億圓の中には既に實際上用を爲すの力が滅じてゐたものも少くない、これ等は復舊の爲めにその全部の資金は要しないであらう。また四十八億圓の中には奢侈的物品が相當にある、これ等は直接にわが國の生產力に關係を有しないので、それの復舊がおくれたとて經濟力の消長に大なる關係はなからう。また關東大震火災の被害の最も甚しかりしは東京市內の半部及び横濱市內の大部分であつて生產機關の要部が破壞されたことは比較的少ない、從つて我國生產力復舊と云ふことに巨大の資金をかける必要は少ないのである。さればこれ等を考慮中に入

れて破壊より生じたる實際的の損害如何、復舊に要する實際的資金の必要額如何と云ふことを精査して見ると、必ずしも四十八億圓を要せずして元の働きをなし得る帝都を建設する事が出來るのである。恐らく切りつめて經濟的の復舊計畫を立てたならば五六ケ年の繼續事業で四十八億圓の半額たる二十四億圓を以て能率的の都市が再建せらるゝことゝ思ふ。若しこの大體計畫にして大なる誤りなしとすれば、大震火災の損害を餘りに多大に思ひ過ぎ、何十億何百億の資金を要するものゝ如く考ふるは杞憂に過ぎたるものと云はざるを得ない、二十數億圓の資金は勿論我國の今日として決して小なるものでない。さりながら、その資金を得るの方法及び之れを使用するの方途如何に依りては、左まで大なる痛苦を覺へしめずして處辨することを得らるるのである。然らば大震後に於ける帝都の復舊復興は如何になり行くか、またそれと同時に我國の一般の經濟狀態は如何になり行くか、我國民の經濟生活は如何になり行くか、之れ何人も知らんと欲し、また何人も懸念して居る重大問題であるから之に關する所見を次に述べて置こう。

今日まで我政府及び府縣市に於て決定したところの大震災の復舊復興計畫によると東京方面及横濱方面に於て、政府と府縣市とが約十五億圓の資金を投じて復舊復興の事業を完成せしむることになつてゐる。其内の六億七千七百餘萬圓は政府の建物、同工場、鐵道等總べて政府の所有物の燒失破壞したのを復舊せしむる爲めに要する資金である、之れは大正十三年から同二十二年まで十年間に割つて使用するものである。卽ち十三年度に一億五千五百餘萬圓、十四年度に一億三千

七百餘萬圓、十五年度に八千九百餘萬圓、十六年度に七千百餘萬圓、十七年度以降二十二年度までに二億二千二百餘萬圓を支出しやうとするのである。次に八億三百餘萬圓が東京及横濱を立派な都市にしやうとする復興費用であつて、これによつて東京横濱の都市計畫に依る街路、橋梁、公園、運河、區畫整理事業、民家建築補助、學校再興費用等支出しやうとするのである、その内東京方面に對する分が約七億圓、横濱方面に對する分が約　億三百餘萬圓で又東京の約七億圓の内で政府の出すのが約五億圓、府市で出すのが約二億圓、横濱の一億三百萬圓の内で政府が出すのが約六千萬圓で縣市で出すのが約四千餘萬圓と見ればよい、この金は大正十二年度から同十七年度に至る六年間に支出せらるゝので、十二年度に二千七百餘萬圓、十三年度に一億八千三百餘萬圓、十四年度に一億九千八百餘萬圓、十五年度に一億七千五百餘萬圓、十六年度に一億二千四百餘萬圓、十七年度に九千二百餘萬圓と云ふ風に支出せらるゝのである、以上の如くに復舊復興の爲めに合計十五億圓の金が政府及府縣市の手から大正十二年より同二十二年に至る間に支出さるゝのであるが更にその合計毎年の年割にして見ると十二年度に二千七百餘萬圓、十三年度に三億三千八百餘萬圓、十四年度に三億三千五百餘萬圓、十五年度に二億六千四百餘萬圓、十六年度に一億九千五百餘萬圓、十七年度以降二十二年度までに三億一千四百餘萬圓を支出せらるゝのである。

さて、以上は政府と東京府と東京市と神奈川縣と横濱市との、この五つの官公署が都市計畫、區畫整理及各官衙、鐵道其他を復舊復興せしむる爲めに投ずる資金で、謂はゞ官邊筋の施行する復

舊復興の事業費である。之れに依つて燒かれたり壞されたりした内務省とか、大藏省とか、砲兵工廠とか、裁判所とか、稅關とか、停車場とか、郵便局とか云ふやうなものが新らしく本建築を爲し、その内部の設備を整へたり、また新しい廣い街路及び橋梁や運河や新らしい公園、學校や其他防火地域に於ける民間建物の補助をなして本建築の奬勵もなされるのであるが（この建築補助費は總額二千萬圓にして十三年度に二百萬圓、十四年度に四百萬圓、十五年度に五百萬圓、十六年度に五百萬圓、十七年度に四百萬圓を出すのである）然らば民間側即ち東京横濱の市民や會社や銀行やが各その復舊復興を爲すに要する資金はこの外に各が別に支出して行かなければならぬ次第であるが、それに幾何を要するか、その見積額は如何樣にもできるが、大體大震火災に依つて燒失破壞した民間の家屋建物は十二億圓、什器家財道具九億圓、商品五億圓、機械二億圓、合計三十八億圓となるのであるから大體之れだけを要する勘定ではあるが、先きにも述ぶる如く、此内には奢侈的のものもあり、また家屋建物の如きも所謂バラックを以て暫らく用を達する者もあるのであるから、その全額を一時に要する次第でもないが、假りにその約半額を要するとして先づ十九億圓を投ずれば大體舊の如き働きが出來やう（更に年を重ぬるに從ひ既に投じた資本の利益を以て完備せしむることが出來やう）しかしてその資金の一部は各被害者の所有資産より出るのもあらう、また銀行その他よりの借り入金によるものもあらう、また被害者が自己の事業なり商賣なりによつて得たる利益金より支出するものもあらうから、初めに十數億圓の金を一時に要するも

のではなからう、今後年々順次にその復舊復興の行程を進めるに從ひ循環して支出さるゝことであらうから、こゝに十數億圓の金を用意して掛らなければならぬと云ふ次第ではない、しかし相當巨額の資金を要することは明かで、此資金調達については將來一と問題を起すことで、之れを得ることは却々容易ではないのであるが、先づ最初はその大部分を銀行の借入れ金に仰がねはなるまい、今日までの處日本勸業銀行、日本興業銀行、農工銀行の各特殊銀行は政府よりの低利資金供給により復舊復興の爲めに民間の各商工業者等へ貸出をなしつゝある、將來もまたなす筈である、その貸付金は段々に殖ゑて來て最近では勸業銀行が六千三百餘萬圓、興業銀行が四千二百餘萬圓、農工銀行が千二百萬圓と云ふ復舊復興資金の貸出を爲すことになつてゐる、その合計は即ち一億千八百餘萬圓である。この外市中の普通銀行が融通する金額は決して少くない、この普通銀行が貸出す爲めに日本銀行へ應援を求むると云ふこともある、震災手形の再割引を日本銀行がして居る、日本銀行は震災直後救濟に三億圓程度まで震災手形の再割引をなす覺悟をきめたが實際之を割引して日本銀行から金を出したのは大凡一億圓位である、その一億圓と前に述べた特殊銀行から出す、一億千餘萬圓と、此の外に普通銀行がその自力で復舊復興の爲めに融通する資金も相當にあるのであるから銀行を通じて民間に融通される復舊復興の資金は恐らく三四億圓にはなるであらう、この三四億圓の資金が、大體民間の復舊復興の土臺となつて、今や復興の端緒が開け、將にその歩を進めつゝあるのである、しかして民間の復舊復興資金としては此外に民間へ流

れ込んだ金がある、それが轉々してその或部分が矢張り民間の復舊復興の資金に利用せられつゝある、それは震災直後から今日までに應急施設及救濟等のため政府及縣市から支出された金で、これが約三億三千万圓餘あつてこの内には火災保險金の支拂の爲め政府から會社へ立替へたる六千五百萬圓もある、これが轉々して或は個人の庫中や懐中にあり、或は銀行に預金となつて更に貸出しの資源ともなつてゐるのである。これが復舊復興の爲めに直接間接に利用されつゝあるのである。この外震災直後から恩賜金義捐金等で約五六千萬圓の金が出てゐて復舊復興の爲め幾らかの潤ひをなしてゐる。右やうの次第であるから銀行からの貸金其他種々の形で民間へ散出されて、今や復舊復興に利用されつゝある金は先づ五六億圓になつてゐる、勿論この内には轉々して地方へ散逸したものもあらう、又復舊復興と關係なき他方面に振り替へられたものもあらう、しかしその大部分は兎も角も東京横濱の銀行に流れ込み直接間接に復舊復興に利用されつつあるのである。この資金が當分の内は轉々して幾度となく東京横濱等罹災市民の復舊復興資金の土臺となりつゝあるのである、かうした資金が轉々循環すれば、即ち今述べた五六億圓の金が三度轉回すれば十五六億圓となる勘定であるから、政府及び銀行が復舊復興を助成するに熱心で、ある程度まで、その資金の融通を滑かにする方針を採るならば、前述の十九億圓の民間の復舊復興資金を數年の間に漸次調達して復興の實を完成せしめやうとするに於ては左まで困難でないと云ふことが考へられるのである、政府及銀行が銀行に集つて來る預金を復舊復興費以外——假へば朝鮮の師團增

設費に使用するの方針を採らば、こゝに資源の涸渇を來して、東京横濱等の市民はその復舊復興に資金を得ることが困難になるであらうが、しかし政府及銀行は恐らくさやうな方針には出でず大體に於て復舊復興の爲めに資金の融通を滑かならしむるの方針（多少の例外と又手加減はあらう）を採るであらう、從つて民間に於て資金を得るにさまで支障を來すことはなからう（相當に確實性のあるものなることは勿論である）。かくして民間の復舊復興資金も先づ前述の如き經路をたどりつゝ辨達せらるゝことと信じて大過ない。

たゞしかし、こゝに至つて少しく注意を要するは前に掲げた官邊筋に於いて行ふ復舊復興費の資金約十五億圓は果して如何にして調達せらるゝかが、之は相當に重大なる問題であつて、若しその大部分が、政府及府縣市の行政整理等の節約に依つて得たる眞の剩餘金より出づるならば問題は比較的容易で殆ど痛苦を感じないのであるが、この十五億圓の資金は前に示す如く大正十三年度に於て三億三千八百餘万圓、十四年度に於て三億三千五百餘萬圓と云ふ如く、年々三億圓以上の金を要するので、その大部分を政府及府縣市の行政整理等に依つて支出することは容易でない、殆んど不可能と云つてもよろしい、幸にして果斷決行に富む内閣に依り行政財政の整理を成就することを得たとしても、復舊復興費の財源に向け得らるゝ整理上の剩餘金は半恒久的に一年一億圓以上を得ることは不可能であると明言して差支へない、されば如何に考慮するも右の資金は六部分を公債募集に依るの外はないので大體に於て結局之だけは間違ひのない歸結であると思ふ。

しかし、この公債募集なるものは我内國市場に於て目下は殆んど行き詰まりの狀態にありて、これを遂行するに頗る困難である、固より若干の募債が絶對になし得られないほどの窮屈ではない。即ち高利と財界への惡影響とを忍べは募債し得る餘地はあるが、無論多くを期待することは出來ない、のみらず我經濟界の根本的整理を遂行してこの不景氣を治療するには一度は非募債主義を勵行しなければならないのである、かやうに不健全な病的な我經濟狀態のことであるから政府は必ず非募債方針に依り募債を一旦中止するに相違ない、そして一方に於て一般の行政整理を行ひ財政の上に剩餘金を捻出し、之を彼此利用し、又一方に於ては勸業銀行をして復興債券を賣出さしめ、又郵便局よりも小公債を賣出さしめ、これ等に依つて零碎の資金を集め、之を一部の財源に供する方法を採りて兎も角當分公債の市場募集に代つての復舊復興費財源を得るの方策を講ずるであらう、今春募集した外債金の殘りがあるから之は勿論使用するものとして、かくして、或時期までは、どうやらかうやら資金に差支なく行けようが、しかし結局復興計劃の財源を得る上に於て動もすれば困難を感ずるは免れ難き事象で、之が爲め事業上に若干の停頓を來すことがないとも限らないものと見て置かねばならぬ、しかして、この政府の困難なる財政から來る復舊復興計劃の停頓は如何なる程度まで現はれて來るか、之は民間の復舊復興の上にまた多大の關係を、齎らして來るので、政府の財政々策や、經濟方針は特に多大の注意を拂ふ必要が起つて來る、復興の將來は大體これによつて左右されると云つてもよいのである。

政府及市等がその復舊復興の財源を得るについて、內國市場に於ける公債募集は當分之を中止しなければならぬとして、外國市場に於て外債を募集し、之に依つて財源を得ることは出來さうなものであると云ふ考を持つものが隨分ある。勿論我國が今日外債を募集しやうとするならば若干の額は出來るに相違ない、しかし第一に高利を覺悟せねばならぬ、第二に種々の條件を付けらるゝ事を覺悟せねばならぬ、第三に又我政府が今日財政の整理、經濟の根本建て直しをするに當つて、たとへ外國からでも今直に借金をすると云ふは、非募債主義の矛盾であり、又經濟界の根本建直しをなすの大矛盾である。特に貿易の輸入超過を順調ならしむる上に於て甚だ不利の結果を來すのである。されば外債の募集はよく〳〵の場合でなければできない、又政府もやりはしないと思ふ。殊に今春彼の五億五千萬圓の外債の募集があつたばかりで尙日も經たないので時期も宜しいとは云へないのであるから當分之を當てにすることは出來ないのである。若し我國の財政經濟が幸ひに、根本的に整理改善されて、その信用を恢復し、また外資を利用しても害の少いやうな經濟狀態になつたならば無論募債もしやうが、今は暫くその時機を竢たねばならぬので、また己むを得ざるの結果と見なければならぬ。

說き來つてこゝに至ると、大震火災の復舊復興の大業は經濟財政の上から見て、之を完成せしむること實に容易でないと云ふ事情が理解されるであらう、何んとしても我國經濟界の大勢に伴ふて自然に發し來る潮流を省察し之に卽し巧妙に經濟市場を操縱して、其實行を企畫し、その實績

を擧げてゆかねばならぬのである。世の人々もまたこの狀勢を大觀的に理解し、その成行を概念的に心得て居らねばならぬのである。單に復舊復興の事のみを如何にあせつて見たところで我國の經濟界の大勢に伴うて之を實行するのでなければ圓滿に、かつ有効に爲し遂げらるゝものではない、何んと云つても帝都の復舊復興は、わが國全般の經濟の復興と相伴うてゆかなければならぬ、帝都のみの復興なるものは甚だ基礎のよわい架空的幻影的のものである。眞の復興は矢張り我國の一般的經濟狀態が立ち直るにつれて進めらるゝものでなければならぬ、また必ず實際の推移はさうなるに相違ないのである。こゝに於てわが國の一般經濟界の大勢は果してどうであるか、それを通觀して今はいかなる潮流を示しつゝあるかを深く玩味するの必要が起るのである。

我國の經濟界は歐洲戰後に大好況を現はし、之が一度び反動を示すや大正九年以後不況となり、以來今日まで既に五年を經過して居るが、未だ順調に回復することが出來ず、貿易の大輸入超過、正貨の減少、爲替相場の下落、銀行の警戒、金融の梗塞、金利の騰貴、會社個人の倒産、商品の賣行き不良、地方小都市の不振、農村の疲弊、失業者の增加、商工業の利益減少、會社の配當減各個人の收入減の如き諸現象を出して、所謂不景氣の世相を如實に示してゐるのである。この經濟界の難局は果たして之を治療して健全なる順境に復歸せしむることが出來るか、若し出來るとすればその時期は何時頃であるか、又現にその治療救濟の方策が行はれてゐるや否や、之等を玩味するに大正九年以來識者の間には既に之れが矯正、救濟、治療方策が相當に論ぜられ、殊に先

覺者は夙に之れを高調し國難來をしば〳〵絶叫したのである、然るに、わが國民の多數は戰後好況の醉夢から未だ醒めずして、我國民經濟の狀勢が如何にあるか、我國の經濟的地歩は如何なる處にあるかの自覺的理解をもつことが不十分で、だん〳〵生産の方は怠け、消費の方は贅澤に流れ、おのずから緊張味を欠いたのであつた。また政府に於ても數度の內閣交迭を見たけれども、どの內閣もその政策が依然と放漫的で時弊を矯正、刷振するに微溫的で不徹底で國民經濟の病源を根本的に一掃するの勇斷に出られたものがなかつた、之れが爲めに五年の歲月を經過して尙ほ不景氣病を治療することが出來なかつたのである、之は獨り內閣當路者を責むるばかりでない、我國民の自覺が乏しかつたことが一大原因を爲して居る、之は特に民主的傾向になりつゝある我國民としては殊更に自主自立の精神に鑑み自らを責むるの必要がある。但しこの五ケ年間我國民の悉くが醉うて居たのではない、また內閣諸公の悉くが、袖手傍觀して無爲無策で空過したのではない、即ち國民中にも一頭地をぬきんでた識者は既に不景氣の襲來するを豫想して、所謂未だ雨の降らざるに雨戸の用意をしたと同樣に整理すべきは整理し、緊縮すべは緊縮し、節約すべきは節約し、常に精神の緊張を計て萬違算なきの途をとつたものも少くないのである、また內閣にしても彼の加藤友三郎內閣の如き不徹底ながらも整理緊縮、消費節約等のことを或程度まで實行しやうとして之等の新政策、新運動の機運を促進するに若干努めたのである。しかも昨年九月の大震火災は物質的にも精神的にも我國民に大打擊を與へ精神の緊張、勤勉力行、節約貯蓄等の如き方面に、頗

る良好なる傾向を生ぜしむるの動機を與へたのである、勿論、所謂喉元過ぐれば暑さを忘るの喩へのごとく震災直後の大緊張味は次第に失せて、良傾向を再び鈍ぶらした觀あるは甚だ遺憾ではあるが、さりながら之れを昨年の震災前に比すれば、今や我國民の意氣、自覺は大體變つて居り、また變りつゝあるのである、固より例外的の人々は多々あるに相違ないが、この一年間の大勢を見る自覺中には甚だ不徹底の者もあらう、我國民が倫理的見地から覺醒した外に、行き詰まりの結果、無い袖は振れないと云ふ己を得ざるの結果こゝに經濟的必要から覺醒した者もあらう、が、覺醒は覺醒である、再び還元する者もあるにせよ、一旦は善道に歩みを入れたのである、入れつゝあのである、かくの如くにして我國民經濟は兎にも角にも今や整理緊縮、奢侈謹慎、浪費節約、勤勉力行、能率增進、科學應用、貯蓄奬勵、資本增殖等のことに反對するものが段々少くなつて來て、これが實行を寧ろ大に計らねばならぬと云ふ機運を增進しつゝあるのである。しかしてこれ等の諸現象が如實に我經濟界に出現して來る時は、その現はれの程度の如何に依つては、言ひ換れば强度の整理緊縮等が行はるれば今日の世相の不景氣なるものは今一層その度を增して國民の大部分が一段と痛苦を感ずるやうになるかも知れない、或ひは一般的でないにしても部分的に例へば何々の事業、何々の商賣、何々の勤め人と云ふ風に或る特殊の者に痛苦を一層感ぜしむることがあるかも知れぬのである。今は右の如き狀勢にあるので、わが社會は一つの大病人になつて醫師が之

を健康體に復せしむべく、折角適當なる治療を施しつゝあつて、病氣そのものを根源から癒す爲め、身體の衰弱を、ある程度まで犧牲に(餘り衰弱させて死に至らしめてはいかぬから時々强心劑を用ひたりその他手加減は必要である)供するのも己むを得ないとするの治療法を行ひつゝある時である、今日までの狀勢を以て見れば、この治療は先づ効を奏し今後尙暫く引續き養生を重ねて、自然に回復し來るに必要なる時日を經過するに於ては、茲に始めて本復の福音に接し、經濟界の根本がこゝに建て直つて回春復活の時期に到着するの見込が、どうやら可能的になりつゝあるので、今はその中途にある、今少しくこの苦痛を我慢すべきときである。若し少し經過が宜ろしいと云つて安心し油斷せば再びぶり返しが來ぬとも限らぬのである、從つて尙用心警戒し、ひたすら人力のあらん限りを盡さしめ、天の惠みの深からんことを祈りつゝあるの時である。

かやうなる經濟界の現狀であるから、大震災の復舊復興の事業もまたこの圈內に於て計畫實行するものと見なければならぬ、如何に帝都復興を急いでも、わが國の經濟の土臺が良好にならぬと帝都復興のみが獨りで、ずん〳〵進行して往くものではないのである、かく云ふと帝都復興の前途は何やら悲觀の如く聽ゆるが、しかし必ずしも悲觀するの要はない、今日の經濟界を病人に假へてその不景氣を說いたが、しかし整理緊縮、勤勉貯蓄等の如きことを實行するは我經濟界を最も健全なる狀態に復せしめやうとしての方策であつて何も我國の經濟力其ものがもう駄目だと云ふのではない、卽ち病人ではあるが、體質其ものは惡くないのである。元來經濟界がよいとか、わるいと

か云ふことは比較的のもので、卽ち今日の經濟界が不景氣で甚だわるいと云ふのは、大正八年頃の大好景氣時代に比較して云ふ話で、之れを大正一、二年の頃の不景氣時代に比べたならば、今日の方がまだ良い景氣だとも云へる、それと云ふが、わが國の經濟力其ものが卽ち國民の經濟活動となる底力が特に非常に減減した譯でないからである。一例を擧ぐれば我國は歐洲大戰後の大正九年頃は約廿二億圓の正貨を保有（此外に外國に於て金に換へ得る爲替を二億圓內外所有して居つたから實際は廿四億圓內外を有して居つたと云へる）してゐたが今は之が十六億圓に減少して甚だ心細い感がある、しかし大正二年にはこれが四億圓以下になつてゐたのである、今日を大正八年に比べれば無論わるいが、大正二年に比べれば、はるかに良い、輸出貿易とても大年八年には其總額約二十一億圓であつたが、近年は十四、五億圓に減じて、何やら悲哀を感ずるけれども、大正二年には之れが六億三千萬圓であつたことに比較して見ると何も我國の經濟的實力が格段に低下減滅した譯でないことが判らう、わが國の近況はただ一言にして現はせば生產の增加に比して消費の增加が多う過ぎたのである、言ひ換へれば贅澤に流れたのである、この贅澤を戒めて收入に應じた消費をして行けば再び順調に回復し健全體になるのであるから、經濟界を背景として行ふ帝都復興も必ずしもその前途をみだりに悲觀するの要はない、たゞその復興の財源を得るに於て、政府も國民も暫くの間は不如意を感じ、多くの苦心努力を要すると云ふにとゞまり、こゝに相當の時日を經過するに於ては、之もだん〳〵と薄らいて、復興の遂行が徐々に容易なるに至ると思は

れるのである。

わが國の經濟界は前述の如く、目下その根本的建て直しをして、もとの健全體に復活せしめようとして、折角努力中なのである、即ち政府でも民間でも從來のやうな放慢的なやり方を打ち破はして、こゝに緊張的な、眞摯的な、合理的な、やり方に直ほさうとしてゐるのである。これは今やともかくもその方角に向つて步一步と進められつゝあるので、これが、ある程度まで徹底的に、し遂げられると、眞面目な人が、だん〳〵殖えて來て、能く働いて、むだづかひをせず、收入の內から貯蓄すると云ふことになつて、こゝに郵便貯金も一層殖へれば、銀行の預金も、だん〳〵增して來ると云ふ傾向になり、之よりして何となく金融界が安定的になつて、金融の梗塞が氷の春風に遇ふてて自然に解けて來るやうに、とけて來て遂に金利が下がつて來る、日本銀行の金利も久々で引下げられると云ふ狀勢になるのである、その結果は先づ從來から、ひつかゝてゐた滯り貸金や、拂はれないでゐた掛金なども、だん〳〵取れ易くなつて來るし、また從來は容易に借りられなかつた金を銀行から融通を得られることにもなつて、今迄困難して居つた各個人もその財政整理をなし遂げて行くことが出來るやうになり、一方では又信用が一般的に回復されて人を信じ物を信ずるやうになつても來る。その結果は金融界、事業界、商業界の人々が從來の如く互に不滿な喧嘩顏で、にらみ合つてゐるといふことが、だん〳〵少くなり、こゝに平和的な親みのある連絡を付けて行くことが出來ることにもなる、しかもまた一方、政府側では行政、財政の整理が、ともかく、あ

る程度まで出來上がつて、こゝに相當の國庫剩餘金が出來て、之れが日本銀行へ政府預金として預けられる勘定になる、從つて政府が民間から吸收して行く金も從來のやうに多くはないことになり、公債の募集は勿論、依然として市場公募をひかへてやらぬで居るところから、金融界は益々くつろいで來て、金融の緩慢、金利の引下を一層促進することになる。また一方に於ては、今日までの狀勢を以て考ふると、わが國の對外貿易は下半期になると、とにかく輸出超過の狀勢を見ることになるであらう、今日までの爲替の大暴落、卽ちわが「圓」貨が二割內外も下つた勘定になり、米國では「一圓」が先づ八十錢ぐらひにしか通用しないといふ大變態、わが國の一大不幸ではあるけれども、しかし之れは一方より見れば歐州大戰後年々殆んど底止するところを知らざるほどに、とう〳〵として流れ來つた我國への大輸入に對する一種の防波堤ともなり、またわが國の輸出を增加する刺戟劑にもなるのである、卽ちこの爲替の大下落は結局外國品の騰貴といふことになるのであるから、自然高い外國品は我國へ輸入を減じて來るであらう、そして我國の品物は結局外國では安いことになるのであるから、自然我國からの輸出は殖へる傾向になるであらう、その爲め、わが國の貿易は勢ひ輸出超過の方へ轉ずる傾向を帶び來るであらう。(我國民が依然として奢侈を續け外國品が益々高價となるにも係らず購入消費するものとすれば、この豫想はそれだけ割引きしなければならぬが、それはある程度までは國民の自覺、政府其他の奬勵に依つて從前ほどの外品消費はなからう)

こうした貿易の轉回傾向のあるところへ以てきて、歐洲なり米國なりが、之からどうなるかといふことを通觀すると、どうも何となく色めき來るやうに思はれる、歐洲大戰後、世界の經濟發展を妨げてゐたものは何んであるかといへば、ドイツが賠償金の支拂を、ぐづついて之れが解決さゝなかつたことである、之が爲め佛國は、その賠償金不拂に對する差押へ的の意味で、ルールを占領して益々問題を紛叫せしめた、然るに、どうやら、このドイツ賠償問題なるものが、解決の端を開きかけて來たのである、卽ち千九百十九年ベルサイユ平和條約の締結されて以來滿五ヶ年間の長きにわたり、歐洲諸國を惱ましたのみならず、間接に世界人類の向上進步、列國の平和的通商の發達をおくらしてゐた、この世界的暗礁も、だん〳〵とれかゝつて來たので、歐米の天地には一脉の春風が吹き渡らんとするきざしがないでもない、ドイツ賠償問題の解決は、やがて聯合各國が互に戰時中に貸借したり、立替へたりした債權債務の始末をどうするかと云ふ問題の解決に更に步を蹈み入れられるので、之が世界の最大債權者たる米國の人心に大なる安心を與へ、米國の經濟が始めて開放的となり、歐洲諸國に對する放資の上に一大變化を來すことゝなるであらう、米國はドイツに對し金を貸すことにもなるであらう、こうなると、ともかくも歐米の經濟界は久しぶりに根底ある活動を始め來るのである、こうした狀勢を呈するには、なほ多少の時日は要するかも知れぬ、卽ち急速に、おいそれと運ぶ譯にいかぬかも知れぬ、しかし、さう云ふ方向へ、だん〳〵步みつゝあるは事實である、之を悉く今直に我國の經濟界の樂觀材料として受け入

れることは愼まねばならぬ、しかしながら、悉く悲觀材料でないことは明言が出來る、わが國の政府及民間の有力者が、この間にあつて、巧みに機會を捉へれば確かにわが國のために貿易上産業上有利なことを爲し得るのである、或は歐洲の産業復興は東洋に於ける經濟競爭を聯想されないでもないが、わが國民の覺悟及やり方一つで東洋の各方面に彼等と相携へて經濟的發展をしとげることも出來やうし、また彼等の購買力の増加に依り、わが特産物を彼の國へ多く輸出せしむることも出來やう。また、この問題を別にして、米國だけの狀勢を見るも同國は既に歐洲戰爭中その外國貿易の大輸出超過等により莫大なる利益を得た上に、戰後もまた輸出超過を續けて利益を占めたがため、世界の金貨はだん〴〵と米國へ集つて、今や米國は黃金の洪水にしたつてゐるのである、米國は歐洲戰爭中(一九一四年より一九一九年まで)に二百八十億圓の大輸出超過を爲し、戰後(一九二〇年より一九二四年上期まで)にも十五億圓の輸出超過を爲し、結局、殆んど三百億圓に近い利益を得たのである、その結果は戰前には三十八億圓の金貨を保有してゐたが、今や九十億圓の金貨を保有することになつたのである、ニユーヨーク準備銀行の金利が、年三分と云ふ低利になつたと云ふことは、實にこの黃金の洪水を如實に物語つてゐるのである。米國の財界は今年の春以來沈靜してゐるが、今年は大統領選擧の年であるから、勢ひ沈滯氣味なのである、しかし秋以後は必ずや、その反動的の好景氣が現はるゝに相違ない、この冬より來春に掛けて、相當目立つた景氣が出やう、米國の景氣が、もし右の如くなれば、わが國の對米輸出、就中生絲の輸出は相當に有望であることを見越されるのであ

る。こうした外國の事情を考へると、ともかく、從來のやうな輸入の大超過は減つて來て、今年の下半期だけで云ふなら、若干の輸出超過を見ることになるであらう、わが國は下半期に輸出超過となるは大體の慣例であるから(我國は下半期になると輸入が減じて、輸出が增加するのを殆んど例とする、之は我國で最も輸入額の多い棉花が收獲季節の關係で自然上半期に多く輸入されて、と反對に輸出の大宗たる生糸は同じく季節關係で下半期に多く輸出されるからで、この外にもいろ〳〵小原因はあるが、主要原因はこゝにある)下半期に輸出超過になつたからとて、すぐ貿易の大勢が轉回したと云ふ譯にはいかぬ、しかしながら、今度はその季節關係からでなく、總體的に方向轉換の兆があつて、輸出が殖へ輸入が減ずる狀勢にならんとしつゝある、(大になつたとはまだ斷言出來ぬが)無論來年の上半期になれば又輸入が殖へると云ふことは季節關係から當然現出するのであるが、しかし今年の上半期のやうな大輸入はなく(今年の大輸入は一つは震災に因る)上半期だけの計算では輸出超過とまではゆかぬでも、輸入超過は大に減ずる形勢とならう、そして、この貿易の好轉は、また、わが金融を緩和する一原因となるであらう。

右のやうに金融が緩慢となり金利が下り、一方貿易の大勢が轉換して輸出超過になつて來ると、いよ〳〵、こゝで、わが經濟界立ち直りの序幕に、はいつて來るのであるが、かやうな形勢を出現し恢復期、回春期の來るのは果して何時であるか、こうした未來觀は世の人々が大に知らんと欲するところで、また興味の津々たる大いなる謎のやうなものである、財界が好轉するの時期をいつと見

越して、その活機を捉ふることは、活社會の大潮流に棹さして、成功の彼岸に舟をこぎ着けやうとする人々にとりては、最も大切な問題である、靜かなること林の如き中に、動機の潜めるを看破し得るは、たしかに一大快事であらねばならぬ、ところが、この財界好轉期を、はつきり、いつと明言することは、なか〳〵出來るものでない、何となれば、財界が好くなると云ふは、冬が過ぎて春が來る、その「春の目ざめ」のことであるが、財界に新らしく來る、こうした現象には、舊年が終つて新年が元日の午前零時に來ると云ふやうな、はつきりとした境ひ目は實はないのである、それはちやうど、春と冬との境ひ目がいつであるか、はつきりしないと同じ樣に、また眠りと目覺めとの、境ひが、いつであるか、はつきりして居らないと同じやうに、はつきりと、いつ好轉すると云ふことはないのである、ある時期になるといつとはなしに、だん〴〵と好い現象が現はれて來て好轉となるのである、しかしながら、その、ある時期と云ふことは、凡そそれは何時頃であるかと云ふことは、研究し、思索し、認識し、判定して行けば云はれ得るのである、夜が凡そ五時頃に明けるとか、春が三月頃から來ると云ふやうな意味に於て、經濟界は、いつ頃から好轉すると云ふことは云ひ得られるのである、しかし、それには、右云ふ如くに各方面に渉つて見きわめを付けて考慮に考慮を重ねなければならぬが、さて、凡その見きわめが付いたとして、いよ〳〵好轉の活機を捉らへるには、早や合點でもいかぬし、また遲緩でもいかぬ、そこは頗るむづかしいところである、こうした財界の潮流に棹さして成功せんとするには、先づ三箇の階段を經て到達される

であらう、第一段に純客觀的研究を爲し、第二段に純主觀的思索をし、そして第三段に至つて主客兩觀の比量に、もとづいた眞正の自覺に到着するやうに努めるのである、かくして早くこの自覺に到着した者が所謂達人で、この人こそ始めて、よく、その隱微をあばき、寶庫の鍵を握る者であると云ふことが云へるのである。

さて、先づ現狀より見て何を第一に注目しなければならぬかと云ふと、政府の行政財政の整理案が、果してどう決定されるか、またそれが政府部内や政黨仲間で無事におさまるや否や、またそれがいよ〳〵豫算案や法律案となつて議會に提出されたときに、衆議院、貴族院を無事に通過するかどうか、それが經濟界に大關係を持つてゐるのであるから、之等を見定めていかなければならぬ、且つは一方に特に政局の動搖があるかないかを見きわめていかなければならぬ。また、その行政財政の整理に依つて、眞實に捻出さるゝ、金額が果して一億圓であるか、一億五千萬圓であるか、二億圓であるか、或は僅かに七千萬圓か、五千萬圓か、それの額如何と云ふことが、また非常に關係があつて大切な問題となるのである、またその金を何に使ふか一部分を減稅に充てるか、何か事業を新に起すか、そうしたことが甚大なる關係を持つて來る、次には政府筋が如何なる方法で消費の節約、勤儉貯蓄の奬勵を行ふか、しかも、どの程度まで、徹底的に之を實行し、その成績がどの位ひ、いつまでに擧げ得られるかと云ふ事が、商品の賣行きに、金融の上にいろ〳〵と大きな關係を持つて來るのである。從つて之等を十分に見極めなければならぬ、それから次に以上の行政整

理、財政整理、消費節約、勤儉貯蓄の如き事柄を、わが國民が、どれほどまでの熱心と意氣と覺悟とで受け入れるであらうか、我國民が感受する程度は、どんなものであらうか、之をまた十分見定めなければならぬ。

これらのことが、どこまで、どう實行されて、その成果を擧げて來るであらうか、それの進み方如何に依つて、わが經濟界が、いつ頃好轉して來るかと云ふことを見定める上に自から遲速の差が起つて來るのであるが、今之を綜合的に考へて見ると、先づ今年の中にその計畫だけは大體目鼻がついて來て、先づそれ等のことが、ある程度までは目的を達成せらるゝやうに可能的な狀況になつて來ると云ふことは云へるであらう、しかしながらそれ等の重要事項が眞に事實の上に決定的に現はれるのは、來る十四年の春と見なければならぬ、確實性のあることを云ふには來年の春にならぬといかぬ、但し今年の秋には、こうなるだらうと云ふその臭ひがかぎ付けられる、その臭ひによつて財界が好轉すると云ふやうな一の暗示を與へることになるであらう、經濟界の內で最も敏感である、東京、大阪等の金融及株式の中心市場では、暗示感性の强い者が多いから、明年の春のことを既に本年の下半期に、ある程度まで見越して、先き走りをし、之が人氣の上に現はれて來るかも知れぬ、こうした機微の間に働らき出す思惑なり投機なりが、株式界に多少は現はて來やう、この人々は成功すれば先見の明ありとせられ、失敗すれば輕擧盲動なりと謂はれるであらうが、大體今年秋冬の頃になると政府の財政計畫、殊に行政整理を受け入れた大正十四年度の豫算の

編成が出來て、之れが金融界、株式界に好轉する一つの暗示を與へるであらう、その前から臭ひをかぎつけたり、一部を漏れ聞いたり、一部は風說となつたりして、だん〳〵世間に知れて來て大體の氣分を察することが出來るところから、東京、大阪等の金融中心市場では何んとなく金融緩和の狀況を帶び來つて——今までは資金を成るべく手許に豐富にして萬一の場合に備へて置かうとしてゐた銀行も少しづゝ手を緩めて、金を出して見やうと云ふ氣になり、幾分か金利も安くなると云ふ傾向を現はし、株式市場は東京、大阪等に於て、大體に上騰する傾向を現はすであらう、しかしながら、この事たるや、もと〳〵將來を見越して謂はゞ一種のあて事になるので、矢張り政府の豫算その他の計畫方針の見據へが十分に付くまでは、何んとなく不安のところもあるから、突きこんで金利を下げたり又大きく株式に放資しやうと云ふことにはまだなり得ないであらう、かるが故に今年中に於ける金融緩慢、株式の上進と云ふが如きことも、その深さなり、幅なりが幾何であるかは餘程注意して、愼重の上にも愼重に考へねばならぬことで、あまり大を望むことは出來ぬかも知れぬ、尤も株式市場は人氣の、ほとばしるところであるから、或は一時豫想外の高値に持ち上げることがないとも限らぬ、しかしこれも、その幅に自ら限度があらう、何となればは好景氣の續いて居るときの樂觀材料は、株式價格に及ぼす響きが實價よりかも、より以上に大きいことが、往々にしてあるが、不景氣の續いて居る時には、そう云ふ風なきゝめが少ない、殊にある程度の値段を現はすと、そこには銀行が待つてゐて、擔保流れの爲め處分すべき株を賣出

し、整理をする必要があるので、その賣物が多いと云ふこともあらうから、さう法外の値段にまで飛び上ることは先づむづかしい、たゞ現在のところでは、全體に株式の値段が利廻りの採算の上より又過去の歴史的の値段から見て、殆んど、ドン底的の安値になつて居つて、所謂價位が低いのであるから、少しく安心を得て、將來の好轉を物語る好材料に接すれば、ある程度までは上るべき運命にあるのであるから、少しでも好材料を得れば、ある程度までは上進するのが當然で、それには相當に合理的の根據があるのであるから、その邊まで株式の市價が騰貴すると云ふことは不思思儀でもなく、また恐らく實現することであらう。

かやうな次第で、金融にしても株式にしても、ある程度までは今年の中に好轉するの氣運が現はれ來ることを豫想せられるが、しかしこれは何れにしても、まだ〳〵多きを望むのは危ぶない、何と云つてもこれは政府の行政整理の實行が十分に現はれぬと、ほんとうの安心をする譯にはいかぬのと、また一方には國民側が眞劍になつて勤勉力行し、貯蓄に努めて來る、その緊張的な眞摯的な行爲が、眞に全國に普遍的に、また上より下に、即ち平面的にも立體的にも現はれる樣に、ならねば十分とは云へないのである、是は何と云つても二月や三月で行けるものではない、それが實際に効果を現はして來るには、先づ一年位はかゝらねばならぬ、我國民が如何に目ざめ、如何に眞面目になつて勤儉力行、能率增進、貯蓄增殖をするか、如何に生産的の物資を多く作り出し、そして一方に金を貯め、その金を又生産的に活用するか、それ等の新現象が現はれるに從つて、始

めて、こゝに將來の經濟的發展の基礎が出來上るのである、されば、わが經濟界は政府の行政整理、財政緊縮てふ消極的現象のあるところへ、右のやうな國民個々の經濟整理が行はれるために、寧ろ暫くの間、部分的には不景氣が強くなる方面もあるのである、失業者も部分的には增加するところがあるのである、行政整理や民間事業會社の事業不振等に依りて人員を淘汰するとか、其外一般に消費が節約され、物の需要が旺盛でないと云ふことから來る不景氣が部分的には起つて來るのである、商人が商賣の不況を見越して、さし向き必要なるもの、外は仕入れをしなかつたり、また製造の注文を控へたりする向き〳〵もあらう、こうした狀態は、いま暫らくの間は續くものと思はねばならぬ、たゞしかし、それはだん〳〵に小さな部分的な方面だけになつて來るものと思つてよろしい、即ち一部分では、ひどく不景氣を嘆じて居るが、一部分では、大分陽氣な景氣が出て來ると云ふことになるのである、それがだん〳〵景氣のよい方が多くなり、惡い方が少くなつて來るであらう、今後、ある期間、惡い、いやな狀態が續くと、その後そろ〳〵夜が明けかけて來て、いつの間にか東雲が、しら〳〵するやうになつて來るのである、これは、地球の、ある方面ではまだ眞暗であるが、他の方面はもう明るくなつて來たと云ふのと同じに、經濟界も一方にはまだ夜の明けない暗い方面があるが、既に明るくなつて來たと云ふ方面もあるやうになり、之がだんだん時を經て來るに從ひ、どこもかも明かるくなると云ふやうになる。世の中の一部では、尙不景氣を嘆じて、いやな日を送つて居る者があり、又不景氣から勞資の暗鬪などを續けたりして

居る暗黑界があるのに、一方では不景氣はどこにあるかといふ風をして居る者が出てきて、光明界がボツ〳〵と出て來るといふことになるのである、かるが故に、甲はその經濟界を見て、まだ〳〵不景氣だといつて悲觀をし、又乙は景氣はもう餘程好いといつて樂觀するが、これは其時の經濟界の半面を見るからである。どちらにも一部の眞實はあるが、決して全班を知解したものでないので。經濟界の眞相を道破し、その大局を達觀したものとは云へないのである。わが經濟界はかやうな順序を經て、今後當分此暗黑界と光明界の兩方が現はれて來る事を知つて居らねばならぬ、そして日を經るに從ひこの暗黑界は夜がだん〳〵明けて、暗いところが少くなり、明るいところが多くなつて來るやうに、經濟界はとにかく明るい方へ〳〵と向つて來るのである、その進み方は遲々として甚だまどろつこいやうで、どうか人爲でもつと早く進めて行きたい氣がするのであるが、と云つてどうも人力を以てさう急にし遂けることはむづかしい、やはり時の力をまたなければならぬ、之もわが國民が自然的に運命づけられたものと見るの外はないであらう。

わが經濟界は大體以上の如き徑路を辿りつゝ、とにもかくにも、段々と回復の一路に向つて來るのである、相當の時日こそ要すれ、前途の光明は、もはや之れを認むることに、あまり躊躇の必要はないのである、恐らく來年になると、所謂一陽來復の光明が輝いて來ると云ふことは、豫言して差支へない（但しそれまでのうちに國民が不眞目、不緊張、無理解で、目覺めるところが更にないか、又は國民中に小康や小成に安んじて輕舉盲動をなし、再び逆戻りをするものが多ければ、

この豫想は裏切られることのあるは勿論である）そして光明界に早く接する方面は、ぼつ〳〵今年中にも少しはあらう、遲く接するものは來年の秋以後であらうが、とにかく、こうして好轉の機に向つて來るであらう、さて、かやうなる經濟界の狀勢になつて來ると、こゝに帝都の復興計劃は、その進行に於て甚だ便利なる立場になつて來るのである、即はち復興の實行が本調子に進められ、復興氣分が一段と立つて來るのである、それは政府に於ける復興事業費の財源を作ることが、らくになるので、即ち經濟界の大勢が直つて來ると、なにも必ずしも今日執つてゐるやうな非募債主義を勵行するにも及ばぬ、金融界の緩慢になるに連れて、その消化力吸收力に應じたる公債の募集は可能的になるから、政府は之によつて復興資金を從來よりは容易に得られて、その事業をはかどらせることが出來るのである、また民間側に於ても復興させようとして計畫して居る事業がいろ〳〵ある、それが起し易くなる、又すべて商賣を擴張して行くにも資金を得ることが、らくになる、政府が復興の爲め使ふ金が、段々と民間に散布されて來て、それが銀行へ預金となつて流れ込み、それが又貸出の元金にもなる、こういつた風に金が、ぐる〳〵廻はり、金融がよくなるうちに、どこともなしに、官の復興事業も、民の復興事業も進行する事になるのである。かやうな狀勢になつて來ると、この時には又外資の輸入なども相當に多く出來るやうにならう、政府も恐らくその時には復舊復興事業費の財源を一部分だけ外債募集によつて調達するの方策をとるであらう、英米兩國の金融市場はその頃になると又日本に對する放資が現在よりは、しやす

い狀勢にならう、又米國の景氣はその頃までには立ち直つて、日本から米國へ輸出するものは大體殖へる狀勢にならう、從來は米國の物價が日本にくらべ比較的安く、日本の物價が比較的高かつたが、その頃には米國の方が高くなつて、日本の方は比較的安くなつて來て、米國へ日本の品物が從來よりは多く賣れて行くと云ふ傾向が生じてこやう（之は前に云ふた爲替關係と米國購買力の增加）、こうした、いろ〳〵の原因から、わが國の正貨は少し殖へて來る狀勢にならう。勿論その殖へ方は歐洲大戰中の如き多額を長く續けることはあるまいが、――そして、わが國の下落してゐる今の爲替相場は、その頃までには、だん〳〵と回復して來て、平價又は平價近くにまで騰貴する趨勢になつて來るであらう、この頃になれば金の輸出禁止といふ事も、解決せられて金の輸出を自由に許すことになるであらう、こうした順調な域に進むに從つて我國の國際經濟上に於ける信用と云ふものは、ともかくも現在よりは回復して來るのである、この國際的經濟信用の回復は、更に一層外債の募集に便宜を與へ、低利で外資を輸入することも出來て、內地の金融を緩和し金利の低落を促進することにもなるであらう、その結果は政府の復舊復興事業は更に資金を得ることが容易になり民間の會社、各個人も亦その復興の爲めに要する資金を得ることが一層らくになつて、益々その復舊復興の行程をはかどらせることが出來得るであらう。かうなると、復舊復興の爲めに要する多大の物資、特にその頃には本建築に取り掛る者も大分出來て來て、バラックを建て直す爲めの建築材料であるとか、又道路、運河、公園等を築造、改築するところの材料であ

るとか云ふものを製造し、販賣し、又はこれ等を取次する者、若くは工事請負を爲す者などの各當業者はだん〳〵と、その仕事なり、賣れ高なりが增して來て、その收入は殖へその利益は增して來るであらう、勞働界でも熟練工は勿論のこと、不熟練工といへども、それ相當に收入を增加して彼等の中には既に相當の貯蓄などをして、その蓄積されたる金を有利な方面へ投資して、更に利殖し、益々成功するものも出て來やう。かくして小成金中成金がそろ〳〵出來るのである、そして、かやうな狀勢を呈して來る頃になると、一方に於て、株式は既に相當の騰貴をなして居るであらう、有利有望の株式は資產家筋が今日の一割以上の利廻りよりかも以下の利廻り、即ち九分とか八分とかの利廻りまでは買つて置いて損がない、金利が下つて來ることを見越すと寧ろ得であると考がへて來るから、この買物がだん〳〵殖へて來る、そしてまた若干の人氣作用が加はり、思惑、投機が出でゝ來て株券の市價は相當な暴騰をなすであらう、しかもその頃になると會社に依りては世間の景氣が、だん〳〵と好くなるので、收入の增加、利益の增加に依りて配當の增加をなすものも出來て來て、これによつて又騰貴する株式も出て來るのである。こうなると株の騰貴は、何んと云つても世間の人氣を引立て、すべて事業でも、商賣でも一般に活氣付けられることになり、こゝに活動的な氣分が、だん〳〵と、たゞやうて來やう。また株價が、ある程度まで騰貴すると、既設會社の株式の利廻りが、下つて來るところから、新たなる會社を創立しても、其株の應募者が出ると云ふことになるから、新事業がぼつ〳〵起ると云ふ新現象も、現はれて來やう、一旦

閉鎖されてゐた事業中には再び復活して仕事を開始するものも出て來るであらう、事業界産業界は、かくして、ともかく春の光りの惠みによみがへらんとするのである、先づ蕾をもつて、それから、そろ〳〵ほころびかけるであらう、暖い順調な日が續くと、いよ〳〵花が咲く、すべての花が悉く咲いて、百花燎爛とまではいかぬでも、咲いた花の中には實がなると云ふやうになつて來るであらう。

經濟界の大勢が、かくの如くに、だん〳〵安定的、積極的になつて來るには、大體初めに中央の東京とか大阪とか云ふところから、人氣が引立つて來て、それが他の地方へも及ぼして、だん〳〵全國的に經濟活動が始まつて來ることが必要であるが、ともかくこうした徑路をたどつて都會も地方も經濟復興を見ることにならう、この全國的の經濟復興と云ふことは、帝都復興の爲め頗る必要なことで、全國の經濟が復興するの氣運に向はないと、帝都の復興は甚だ、しにくいのであるが、一般の經濟狀態が右の如き域にまで改善して來ると、帝都復興はいよ〳〵基礎ある進行を見るに至るのである、經濟復興に伴はない帝都復興は、砂の上に建てた家のやうで頗る危險であるから、必ず經濟復興を促進し、その圈内に於てやらねばならぬことは前にも述べたが、この帝都の復興が進んで來ると、之に依つて更に經濟復興を、ます〳〵促進すると云ふことになるのである。これは互に因となり果となりて、相賴り相助けて進み行くところのものである。帝都復興計畫が、相當に進むと、それに從つて經濟復興がまた進むのである。その經濟復興が進むと、亦こゝに帝

都復興が進むと云ふやうになつて行くのである。何んと云つても大震火災後の大破壞を復舊復興せしむる爲めには、前に掲くる如く、政府及府縣市の手に依つて放出される金が十五億圓からあり(之は十二年から廿二年までの間に)、銀行より民間に貸出されて融通されるものが、今のところで既に三億圓内外もあり、震災直後に應急費として政府其他より放出されたものが、約三億三千萬圓もあつて、之れで合計二十億圓からになるのである、政府等の使ふ右の十五億圓は大正十二年より廿二年までに支出する金であるが、こゝに先づ大正十三、四、五の三年間に、どれだけの金を政府等が使ふかと云ふと、約十億圓になるので、この金が今年、明年、明後年と、だん〳〵に物の代金となり、人の賃銀となつて、民間に散布されて行くのである、そしてこれが轉々して世の中を潤ほし、いろ〳〵に形ちを變へて物に對する需要、人に對する需要をよびおこすのである、この外に今述べた銀行から出る金、及び震災直後の應急金等を合計し、この金が大部分、今後二三年の間に幾度か、ぐる〳〵循環し轉回されて復興のために利用されるのであるから、どうしてもこゝ二、三年の間に東京、横濱の復興を中心に少くとも二十億圓以上からの一大資金が、世の中に働き出すことになるので、之が爲め各種の物資の製造を大に刺戟し、販賣を大に盛にし、また人の需要を、だん〳〵喚起すと云ふことは必然起つて來るのである。この二十億圓の金は我國の經濟界に取つては相當大きな金で、ともかく、わが國の經濟活動には相當大なる刺戟を與ふる力となるのである。この大金の働き出す、形式とその効力とは、戰爭があつて巨額なる物資が製造、販賣さ

れ、之によりて利益を得るものもあつて、一般に活氣がだん〳〵付て來るのと、殆んど同じな點があるのである、たゞ先きの歐洲大戰中に於けるが如き大金ではない、歐洲大戰の時のと、今度の復興との比較は中々むづかしいが、とにかく、わが國は歐洲戰爭中の大正四、五、六、七の四年間に約四十億圓を利益し、此の金が働き出し大好景氣を現はしたが、今度のは今云ふ如く初めの三年間に二十億圓位ひの金が動くのであるから、大分そこに差がある、尤も歐洲戰爭中の初めには無論四十億圓と云ふやうな大金が、はいらうなどゝは夢にも思はず、また初めはそんなに、はいりはしなかつたのであるから、初期の比較で云ふと、今度の方が大きい金が動くのである、しかし、歐洲戰爭の、なかば後に至りては、豫期せざる大金がはいつて、之がだん〳〵動き出し、あの大活動をやつたのであるから、その點は今度のとは、餘程違ふのみならず大體歐洲大戰爭中動き出した大金は、わが輸出貿易の增加に依る利益、我國民の海外に於ける事業の利益に依りて得たる金で、即ち儲けた利益金が土臺となつて活動をなしたのである、然るに今度動かうとする大金は、大體わが內地に於て地震火事のため破壞されたり、燒かれたりしたものを補充するに必要なる物資の製造販賣から生ずるところのものであつて、前のは積極的の利益であるに反し、之は消極的の利益金である、從つて之れを全く同一に見ることは不當である、前のは他國から日本へ取つて來て、それだけ日本の富を增した(其後輸入超過で大部分なくしたけれども)のであるが、今度のは他國から儲けたのでなく、國內で甲の者から乙の者へ、たゞ移りかはるだけで、とも喰

ひをするやうなもので、日本國と云ふものから云へば別に利益ではないと云へるのである、しかしながら個人經濟の上より云ふと、そこがまた大に違ふので、わが國の人が外國人へ、ある商品を賣つて利益を得るのと、內國人へそれを賣つて利益を得たのと、その本人を利する點に至つては別にかわりはないのである。從つて今度の利益金が土臺となつて働き出すところの、物資の需要旺盛とか、國民經濟の活動とか新事業の勃興とか云ふやうな直接的の効果に至つては、大體に於て前と同じやうな徑路をたどるべきもので、その金の元が、どこから來ようと、初めの內は、あまり違ひがないのである、やはり一度は之により景氣を引き立てることになるのである、殊に今度のは日本國內で身で身を喰ふ形ちにはなるが、しかし、わが國民の努力に依つて新たなる物が創造され、そこに我國の富が新に價値付けらるゝものもあるのであるから、その金が必ずしも、わが國の破壞された富の身代りとしての、消極的のものとのみは云へないのである、もつともこの問題に付き、こゝに深く考へて置かねばならぬことがある、それは歐洲戰爭のときの大金は今云ふ如く、皆外國から儲けた金であるから、使つてしまへば、たゞ、なくなるだけで、返へす必要はなかつたが、今度のは政府も府縣市も復舊復興に要する費用の財源は大部分公債に依るので、即ち借金でやるのであるから、これが借金として殘るので、そこに大なる相違がある、この借金が若し長期で四十年、五十年後に返へすのなら現代の人は、殆んど借金に責任關係のないやうなことになるが、その代りに子や孫が拂はなければならぬことになる、現代の人が使つたのを子孫が尻

ぬぐひをしなければならぬことになる、然るに若しあまりに此借金が長期であると、子孫は又その頃どんな災害に遇はぬとも限らぬので、さうすると、それの負擔と先代の負擔とをしなければならぬ譯になつて、子孫は實に大變な苦しみをしなければならなくなる、あまり長期にして子孫の負擔を重くすることは慎むべきことで、成るべく、この現代の人が早くこれを負擔して返へしてしまはなければならぬ、さうした理由で之はどうしても、なしくづし的に現代の人が、だん〳〵と負擔し、返して往かねばならぬので(利子だけは其年から負はねばならぬ)、それだけは、大體右の利益の内より出る勘定になる。勿論此の點に付ては受益者負擔主義で公正なる財政々策を立てべきであるが、とにかく國民の一般租税で、ある程度までは負擔しなければならぬことになる、從つて歐州戰爭の時の大利益と同じやうに思ふ譯にはいかぬ、今度のは大體借金の金であつて(全部ではないが)、あと腹が痛む金であるから、結局わが將來の經濟界の狀勢を見きわめるため大に考慮の中に入れて、さうした金だといふことを注意する必要がある、しかしながら、それは少し後の事で、兎にも角にも、復舊復興の事業が進むと、民間では自分の仕事なり、商賣なりから、戰爭の時の利益と同じやうに、受け入れられるので、それが一旦それ等の者の懷に、はいると、それからだん〳〵と廻つて遂に之が土臺となつて、結局經濟活動を始むるといふことに必然的になつて來るのである、從つて、そこには、それ相當の好景氣が自然起つて來る譯で、これは現代の經濟組織から生ずる當然の成り行きとも云ふべきものである。

さて然らばそう云ふ經濟界の狀勢は、いつ頃から起るか、世間の景氣はいつ頃から好い方になるかといふに、右等の狀勢と云ふものは決して、一時にぱつと出て來るのではない、前にも述ぶる如く夜が、しら〳〵と明けて、ある一方面はまだ暗いが、ある一方面は、いくらか薄明るくなつたといふやうに部分的に順序的に、だん〳〵と好くなるのであるから、その意味に於て大體的にいふなら、本十三年の秋頃までには、凡その見込みが付く、即ちそれまでには前途に對する何等かの暗示を得ることにならう、この暗示は多分明十四年の春頃には世の中が大分明るくなるといふことであらう、そして明十四年の下半期頃になると、一層その色が濃くならう、恐らく明十四年の下期から明後十五年にかけて廣い好景氣が出て來るのであらう。そんな風にだん〳〵と進むのである、是等のことはどうしても一本調子には進むまい、しかも、この經濟界が本當に立ち直つて行き、いよ〳〵一般的の好景氣を出すまでには、いろ〳〵の迂餘曲折、波瀾起伏といふやうなものが出て來るからそれらを乘り越してから、後に始めて現はれるであらう、かるが故に、わが經濟界の立ち直り、復興事業が進み、經濟の復興、財界の活躍を見ることを頗る樂觀的に見越して、明年にもなると直ぐに一大景氣が出るやうに思ふものがないでもないけれども、それは早まり過ぎてゐて、さやうに急速な譯にはいかぬ、來年から部分的に好くはなるが、それが進むには中途に山もあり、川もあり、關所もあつて、それらに、ぶつかつて休まねばならぬこともある、所謂川どめなどに出遇ふこともあらう、景氣が一時に出さうになると、政府及び日本銀行は、人氣が先

き走りして來ては、折角の回復をまた逆戻りさせるからと云つて、こゝに之を抑制するところの方策を採るであらう、即ち所謂市場調節の手段を講ずるであらう、そして人氣を空景氣の方へ、もつていかないやうに、浮いた人氣にならないやうに警戒するであらう、その方法としては金融界に、だん〳〵金が流れ込んで餘るやうになれば、その金を吸收する、即ち引き上げることをするので、公債の募集或は債券（特殊銀行）の賣出し等を行ふであらう。しかも、その頃には一方に復舊復興費の爲めに財源を要し、もはや公債募集に依つて、これを作りだす必要にも迫られてゐる時であるから、旁々、そう云ふ募債を實行するであらう、之れに對し右の如き調節策は一種の人爲策であつて、到底十分に市場調節の目的、即ち景氣の出るのを抑へることはできないで、却てそれが爲めに人氣は、その裏をかいて反抗的に沸騰すると云ふ風に、見てゐるものもないではないが、しかし、それは過去に於ける好況時代に政府が行つた調節策の一の體驗より推した觀測であつて、さほどに見くびれるものでもない、不景氣の永く續いたあとは社會一般の人心が好景氣の續いてゐる時のやうに氣が強くなつて居らぬから、政府及び日本銀行の抑制手段は必ず、ある程度まで効を奏することができる。民衆心理は往々にして變化し、強くもなつたり、弱くもなれば大膽にもなつたり、恐怖もしたり、いろ〳〵に變るのである、その變化を考への中に入れて研究すると、景氣回復の初期に於ては政府の調節の効能が相當にあるのである。たゞ、さやうな調節策を度々繰り返へして實行して居る中に結局は經濟の自然の流れに從つて、行くところまでは、

大體上行かねば己まぬといふ事になるのである、即ち調節策を行つても金が世の中に結局多くある以上は、最後には人氣の勃發を來さゞるを得ないと云ふ事になる、例へば銀行に金が餘つて來たから、その遊金を吸收して、市場の調節を計らんとし、公債の募集をしたとする、その當座はその資金が日本銀行に吸收されて、民間市場はそれだけ資金の過剰がないことになるが、相當の時を經ると、その公債金が復興事業費となつて、再びまた民間に出て來て、それがまた銀行にはいつて來ることになり、また、金がだぶつくのである、さうなると、また公債募集をするけれども、度々それを續けてやつて居ると、その内に、だん〳〵その金が外の方のいろ〳〵の事業や（投機などにも少しづゝ）何かに使はれてくることになる、しかも亦公債に應募したものは、その公債をもつて融通をうけ、金にかへて使用することが出來る、公債を第二の兌換券なりなどゝ云ふて（この說は不當なれども）融通を求め、亦融通を與ふる銀行も出て來るのであるから、いづれにしても結局は財界に活動作用を起す原動力にならざるを得ないことになる、そしてその頃になると兌換券は增加せざるを得ないことになつて、所謂通貨膨張のことが現はれるのである、何となれば、その時には市中銀行が日本銀行へ預金を多くする時で、さうなると、どうしても民間が日本銀行に對し、債權を持つのであるから、民間が消極的にならない限り、金を引出すことが多くなり、自然兌換券の增發とならざるを得ないのである、さやうな譯で、だん〳〵調節は効が薄くなるのである、しかし政府及び日本銀行の調節策は全然效力がないと思ふのは、非常の誤りで、若

し政府及び日本銀行が膨張政策を採らず、緊縮主義を押し通さんとし、元來が有限的なる日本銀行の公債擔保貸出しを、更に制限したなら如何である、第二の兌換券どころではない、公債の融通は止まるのである、やはり日本銀行の市場に對する威力は相當にあるのである、さうした次第であるから、先づ最初は政府及び日本銀行の方針即ち穩健着實なる經濟方針に順應して、景氣は徐々に出て行くものと思つて居らねばならぬ、決して一足飛びには行かぬものとせねばならぬ、然し、かくして日を經過するに從つて、歩一歩と好轉より好轉へと、進んで行き、遂に人氣が活躍しかけるに從ひ、兌換券もだん〳〵に膨張して來て、全般的に大金の働きが現はれ、一大活動を財界に見ることとなるのである。

然らばこの經濟復興即ち財界の好景氣なるものが、現はれるとして、それは、どれ位の力のある強さで、深さであらうか、又その好景氣が、どの位の間續くか、直きに縮んでしまうかどうか、こうした問題は、また頗る研究を要する大問題であるが、これは今後第一に我が國民が如何なる程度の自覺と、發奮と、努力と、緊張とを以て進んで行くか、國民の理智の働きの程度如何に依ることである、今後ある期間を經過すれば、相當の景氣の現はれることは疑ひない、わが國の經濟の復興を促し、帝都の復興を進行せしめて行き、遂に財界の好景氣を現はすと云ふことは、これは相當の基礎的好材料があつて、たしかに豫期し得らるゝが、それをどこまで強く深く、そしてどこまで堅固にどの位の間續けて行くか、之は、わが國民全體の今後の意思と行爲とが、どこまで、どう動いてゆくかと云ふことに最も深い關係を持つのである、從來わが國民は日清戰爭後に於て經濟的大發展をなし、又日露戰爭後に於て更に一大發展をなし、歐州大戰に際しては世界的に大活動をなして經濟の大復興を爲し遂げたのである、その精神この意氣を以て、今後の我國の發展に各々がその力を盡し從來よりも、理智的な、やり方をしてゆくならば、内に於て能く現時の難局を切り拔けて、經濟界の立て直しをなし、外に向つては平和的の經濟發展を、し遂け、こゝにわが國經濟の一大復興を計り、それを相當に根强く相當に長く續けて行くことが、決して難事ではないと思ふ。わが國は從來三大戰爭に依つて經濟の發展をなし來つたが、之れは何も戰爭そのものが經濟發展の眞の根源をなしたのではない、先づ明治維新以來我國は開國進取の國是を確立して、國民的活動の下に、孜々として經濟力の向上進歩を計り、國民個々が各々その業を勵み、その力を養ひ、國民的集團の大勢力を蓄積し來つて、その結晶を土臺にして、日清戰爭に勝ち、この戰捷を口火にして、わが國の戰後の經濟大發展をなし遂げたのである、日清戰爭後わが國民は一時戰勝の誇りに醉ふたが、露佛獨の三國の干涉に依つて、遼東半島を支那に還附しなければならぬ大國辱を受け、之に發憤して所謂「臥薪嘗膽」を高調し、隱忍して國力の充實を計らねばならぬと云ふ時代精神を國民間に貫通せしめ、これに依つて以て勤勉力行し、國力を培養し、蓄積し、この大潛勢力が、原動となつて遂に日露戰爭にも勝ち、之を導火線として、我財界の一大活躍を促し、更に經濟の一大復興を見るに至づたのである、日露戰後の好景氣に一時浮かされたる我

國民は、臥薪嘗膽の精神は失せかゝつたが、明治大帝の深遠無量なる聖慮に依つて、所謂戒申詔書の煥發となり、「世界の大局から說き起されて、戰後に於ける庶政の更張を要すること、上下心を一にして忠實に各其業に服し、勤儉を守つて、その産を治め、信義を厚ふし、華を避けて實につくこと、怠惰墮落を戒めて自彊已まざること」を、わが國運發展の大本にせよとの國民的大指針を與へられたのである、心ある國民は、これに依つて大に日露戰後のわが國が、何んとなく弛緩した狀を反省し、こゝに、また發奮、緊張して、精神の振興を促し、心あるものは之れより大に努力して一日も息まなかつた、この精神的復活が土臺となり、この間に國民の一大實力が蓄積せられたが、たま〳〵歐州大戰と云ふ意外なる出來事にぶつかつて、この潛勃たる潛勢力を發揮して、遂に我國の經濟大發展を爲したのである、世の人々は往々にして、わが國が戰爭そのものによつて景氣をよくした如くに考へるが、戰爭は、わが國民の經濟的大活動を産み出す導火線とはなつたが、經濟活動の根源なるものは、その前から國民が養ひ來り、鍛錬してきた有形無形の力の集まりである、これが戰爭なるものに刺戟されて、その力を加速度的に現はして、遂に經濟大發展をなしたのである、言ひ換へれば、わが國民が精神を作興し勤勉、努力、節制、貯蓄、正義等の實を擧げ、理智を基礎とした進歩向上をなし來つたその結果なのである、これは獨りわが國のみに限らぬ、如何なる時代でも、如何なる國でも、苟くも國民として、この精神の存する以上は、その向上發展を必らずや期待せらるゝので、之は眞に動かすべからざる鐵則と云ふべきである、わが國民は

震災以前より既に幾分か之等に目ざめる傾向はあつたが、震災後は一層この理法を能く解して、戰爭がなくとも、最近科學を應用して、勤勉、努力、貯蓄、節制、正義の如き事柄を心に深く刻み、之を今後、實行することに努むるならばこゝに一大復興も現し來るは疑ひないのである、そして之と同時に、わが國ではとにもかくにも、政府が率先して、今後の經濟國策を確立し之を徹底的に實行しなければならぬのである、從來とかく聲明だけはするけれども、實行が甚だ微溫的である、又そのやり方が、往々にして捉はれた窮屈な所があつて、經濟界――經濟界と云ふも社會全體に渉らねばならぬが、――根底を建て直すに甚だ不十分であつた、わが國民經濟の繁榮、經濟界の大發展を計るには之等政府の政策と其實行の如何が頗る關係してくる、特に又對外發展に於て、その必要を切に感ずるのである、元來我國は海外に向つて經濟的發展をなさねばならぬ國柄である、又從來識者は之について相當熱心に論究もし畫策もしてきたのである、不幸にして未だその效果を擧ぐることが甚だ少く、近年は寧ろ我國の海外經濟的事業は退嬰萎縮にのみ傾いてゐる。こゝ兩三年間之等の問題は殆んど何等發展を見ない、經濟復興、財界發展の根幹的基礎はこれ等のことが、それ〴〵目鼻がついて、若々運んで來ることによつて一層强く深くされ、又好況期も長く續けらるゝのである、日露日支の問題の如きは、特に我が經濟復興に大なる關係を持つのである。わが國に於ては政府も國民も深く之等を思ひ、わが國運發展の大方針、大理想を樹て、一致協力して進まねばならぬ、現時の、わが經濟界が今後回復し、好景氣に轉じ、その一大

發展を爲すには皆右の如き條件を必要とする、其條件が十分に充さるゝに於て、好景氣の深さも、強さも一層增し來るのである、また、その時期も長く續けらるゝのである。わが國の經濟界は大體に於て、前に述ぶる經路を以て、推移し、遂に好轉し、經濟復興を見ることは、先づ疑ひないが、果してどこまで、どう發展活躍して往くか、吾人は益々奮勵努力して、今後のわが國民及び政府の爲すところを、おもむろに、注視し、その成果を收むることに、微力を捧げんと思ふのである。

第一期　好景氣の絶頂に達してゐるときである。品物の買行はすゝ〳〵よい、事業の利益は最も乃心が有異而目になつて、勞動能率は益々減り、商業家の利益はだん〳〵少くなり、之を防ぐため、知らず識らず世間から暴利を貪るといふ非難を受けるやうなことをする、財界はいよ〳〵暴落する」

第四期　物質の下落に向ふときである。一般にふところぐあいが

第六期　不景氣がいよ〳〵どん底に陷るときである。世間は已むを得ずいよ〳〵儉約をする、世帶を引縮めて寄合世帶を始める、賣家や貸家が澤山現れる、貯蓄をする氣になる

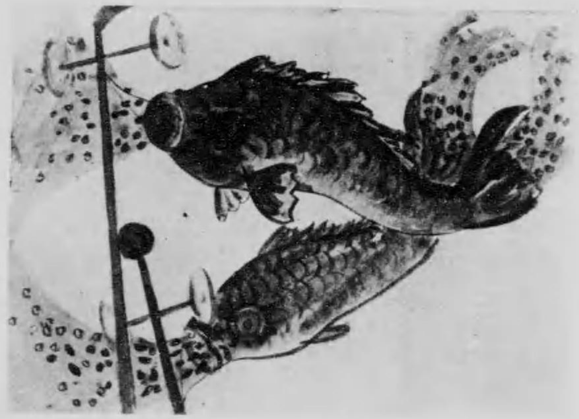
景氣不景氣の循環を語る

ビシネスサイクル

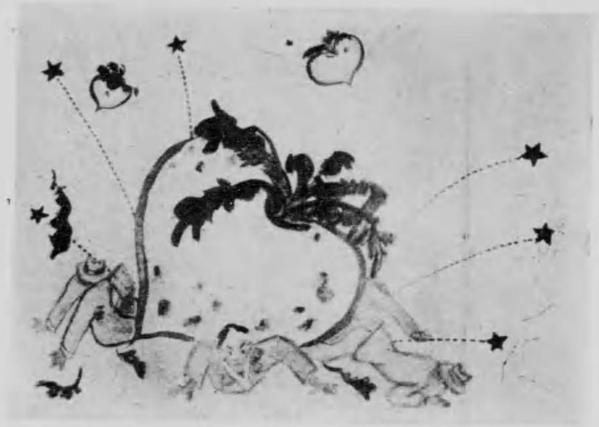
（上）

——（中外商業新報社）——

第一期　好景氣の絶頂に達してゐるときである。品物の買行はますます〳〵よい、事業の利益は最も多い、賃銀は高くなるばかり、一般の收入は最も多いが奢りがはげしくなる、上景氣の花は此の時から萎みかける



第二期　景氣が下り坂に向つてくるときである。收入の多いにつれて兎角氣が緩み怠ける氣風を生じて來る、勞動能率は低下する、奢りはますます〳〵はげしくなる、株式の相場は天井を打つて下落に向ふ、



第三期　株式暴落のときである。人心が不眞面目になつて、勞動能率は益々減り、商業家の利益はだん〳〵少くなり、之を防ぐため、知らず識らず世間から暴利を貪るといふ非難を受けるやうなことをする、財界はいよ〳〵暴落する。

第四期　物價の下落に向ふときである。一般にふところぐあいが苦しくなる、無理算段をする者が多くなり、自づと犯罪事件などがふへ、消費が減つて物價は、この頃から下落し始める

第五期　不景氣がますます〳〵激しくなるときである。人に對する信用も、物に對する信用も、共に薄くなる、銀行は警戒を嚴重にする、融通は利かなくなる、失業者は續々增加して來る

第六期　不景氣がいよ〳〵どん底に陷るときである。世間は已むを得ずいよ〳〵儉約をする、世帶を引締めて寄合世帶を始める、貧家や貸家が澤山現れる、貯蓄をする氣になる

景氣不景氣の循環を語る

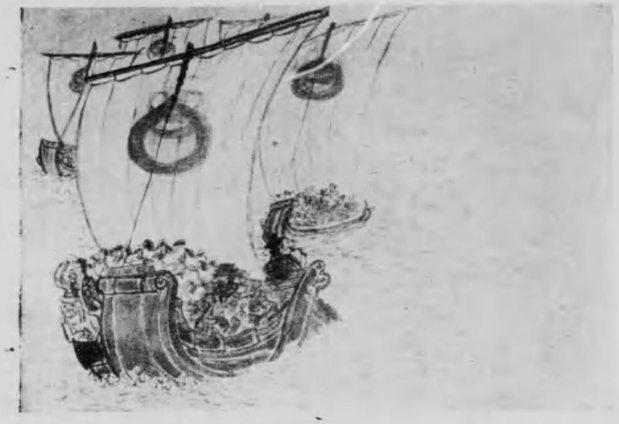
ビシネス.サイクル

（下）

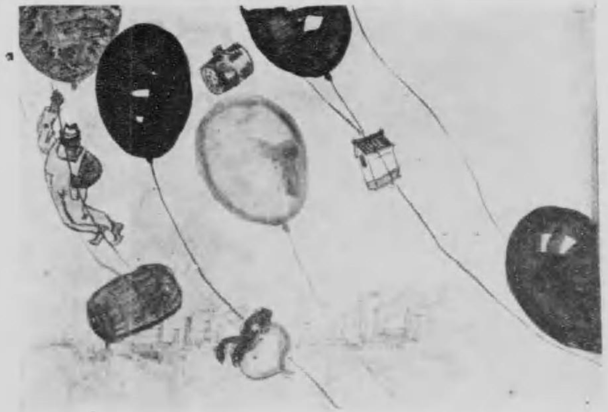
——（中外商業新報社）——

第七期　景氣回復の曙光が現はるゝときである。一般の者が益々儉約と貯金とに努め、銀行は警戒を解いて、貸出しを緩める、それに連れて產業界は新しい活動を始める

第八期　株式の騰貴に向ふときである。一般の者はいよ〳〵働かねばならぬ事に氣付き、勤勉の風が盛んに起る、勞働能率は增して來る、株式相場はこれから騰貴に向ひ、だん〳〵景氣回復の事實が現はれて來る

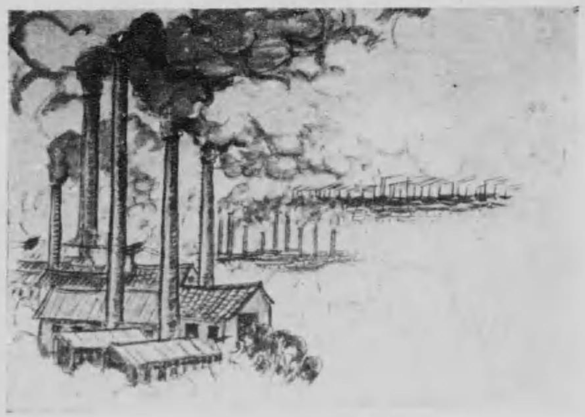


第九期　社會が安定に向ふときである。人の心特も眞面目となり、商業家も正しい値段で品物を賣る習慣がついて來る、誠に穩かな時期となる



第十期　物價が騰貴に向ふときである。誰しも相信ずる心が深くなり、物に對しても人に對しても信用が殖え、購買力が增して來る、そして物を買つて置くといふ考へも强くなり、物價はこゝに騰貴の階段をたどり始める

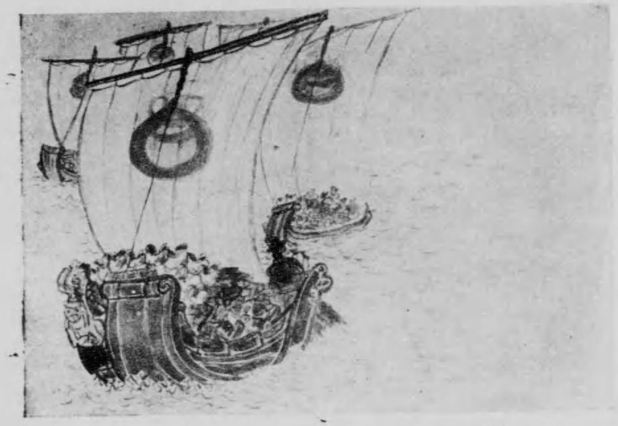
第十一期　景氣がいよ〳〵よくなるときである。製造は殖え、品物の賣行はよくなつて來る、失業者もなくなる、誰も收入が增して來て、いよ〳〵好景氣が出て來る



第十二期　人が皆好景氣の中に樂むときである。世間は一般に收入が多くなり、ます〳〵生活を擴張し、上景氣になつて愉快な日を送る

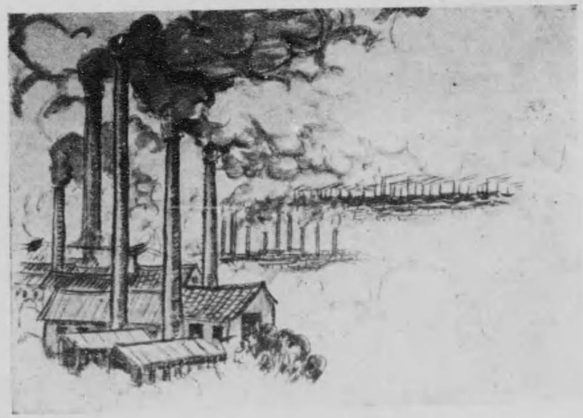
第七編

ら騰貴に向ひ、だん〳〵景氣回復の事實が現はれて來る



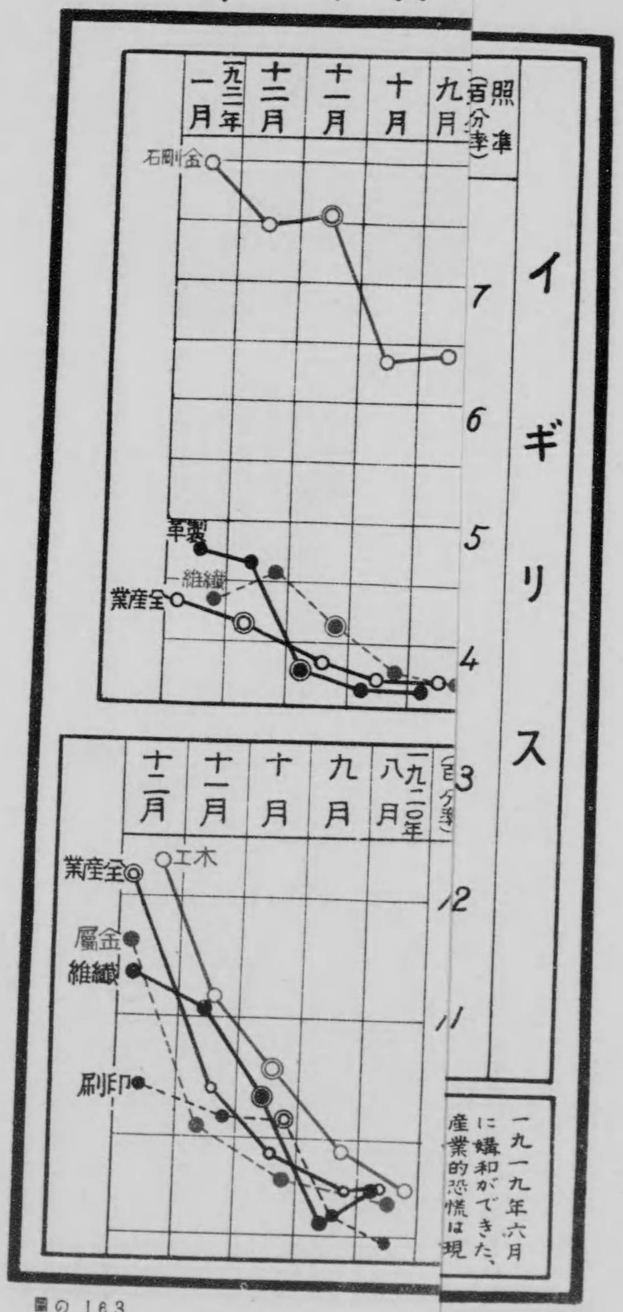
第九期　社會が安定に向ふときである。人の心特も眞面目となり、商業家も正しい値段で品物を賣る習慣がついて來る、誠に穩かな時期となる

却して來て　い
よ〳〵好景氣が出て來る



第十二期　人が皆好景氣の中に樂むときである。世間は一般に收入が多くなり、ます〳〵生活を擴張し、上景氣になつて愉快な日を送る

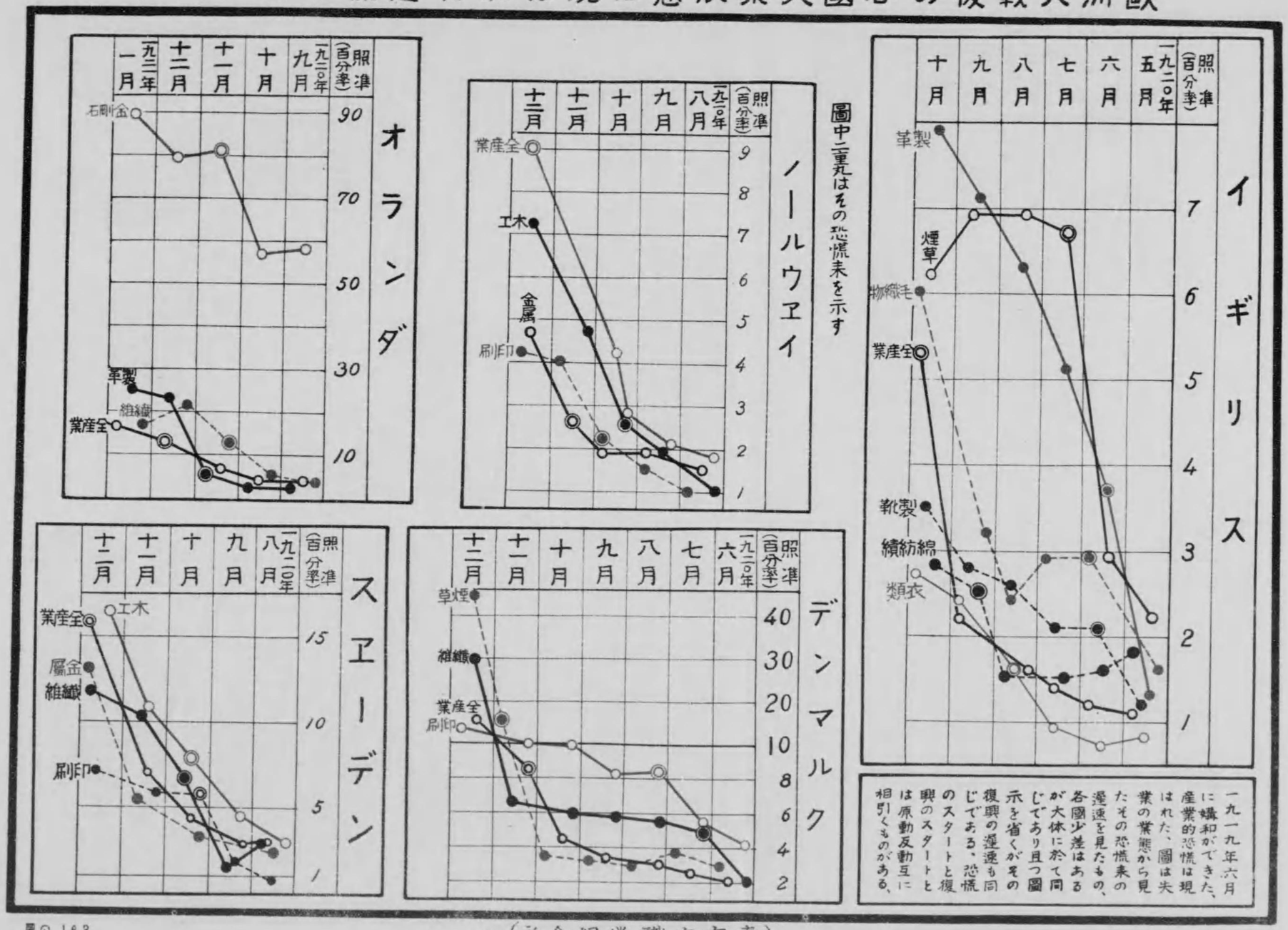
トータスの



一九一九年六月に媾和ができた、産業的恐慌は現

圖の163

歐洲大戰後の各國失業狀態に現はれたる恐慌のスタート

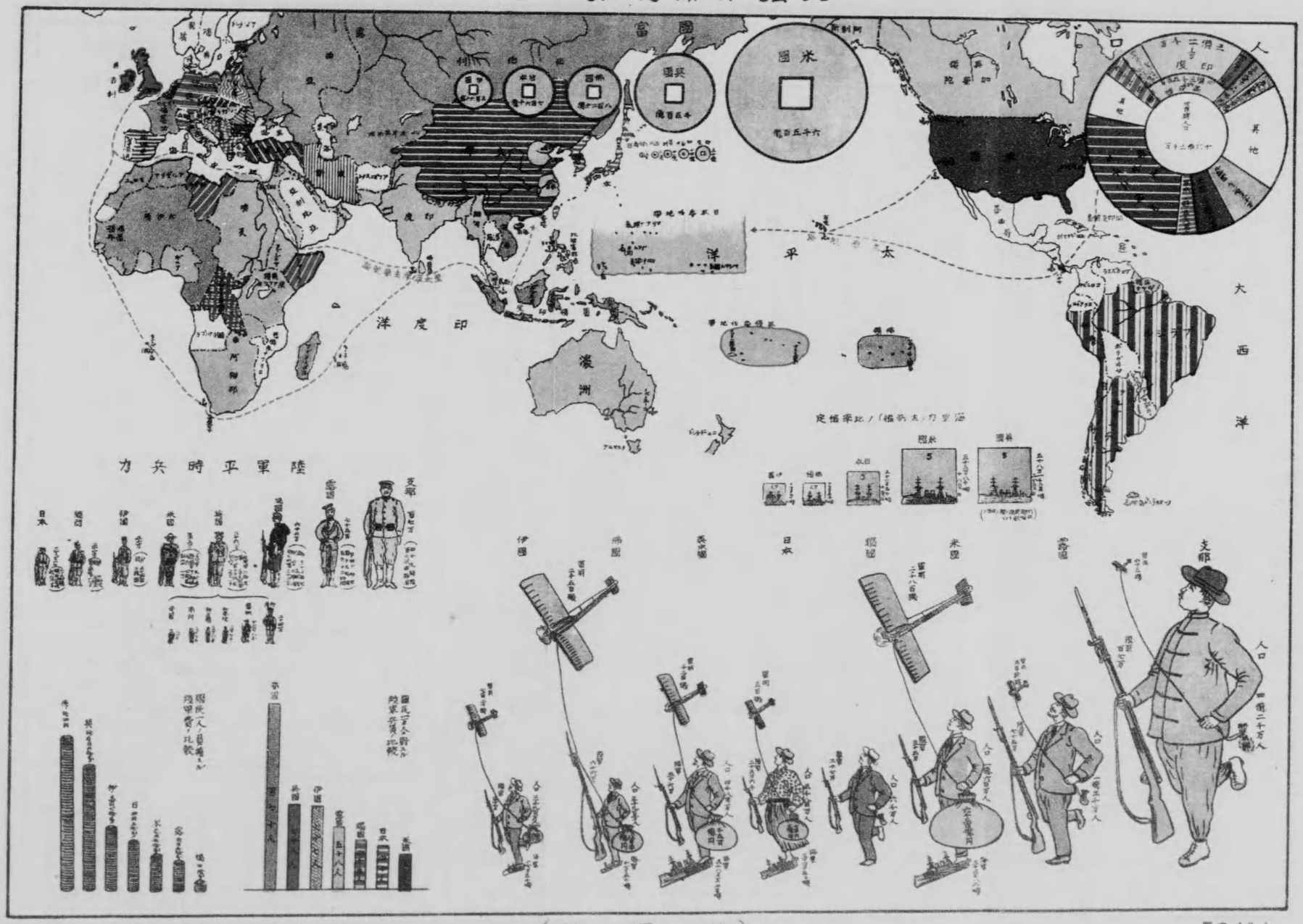


一九一九年六月に蠟和ができた、産業的恐慌は現はれた、圖は失業の業態から見たその恐慌来の遲速を見たもの、各國少差はあるが大体に於て同じであり且つ圖示を省くがその復興の遲速も同じである、恐慌のスタートと復興のスタートとは原動反動互に相引くものがある、

—(東京府職業紹介所)—

露光量違いの為重複撮影

列強軍備現勢一覽

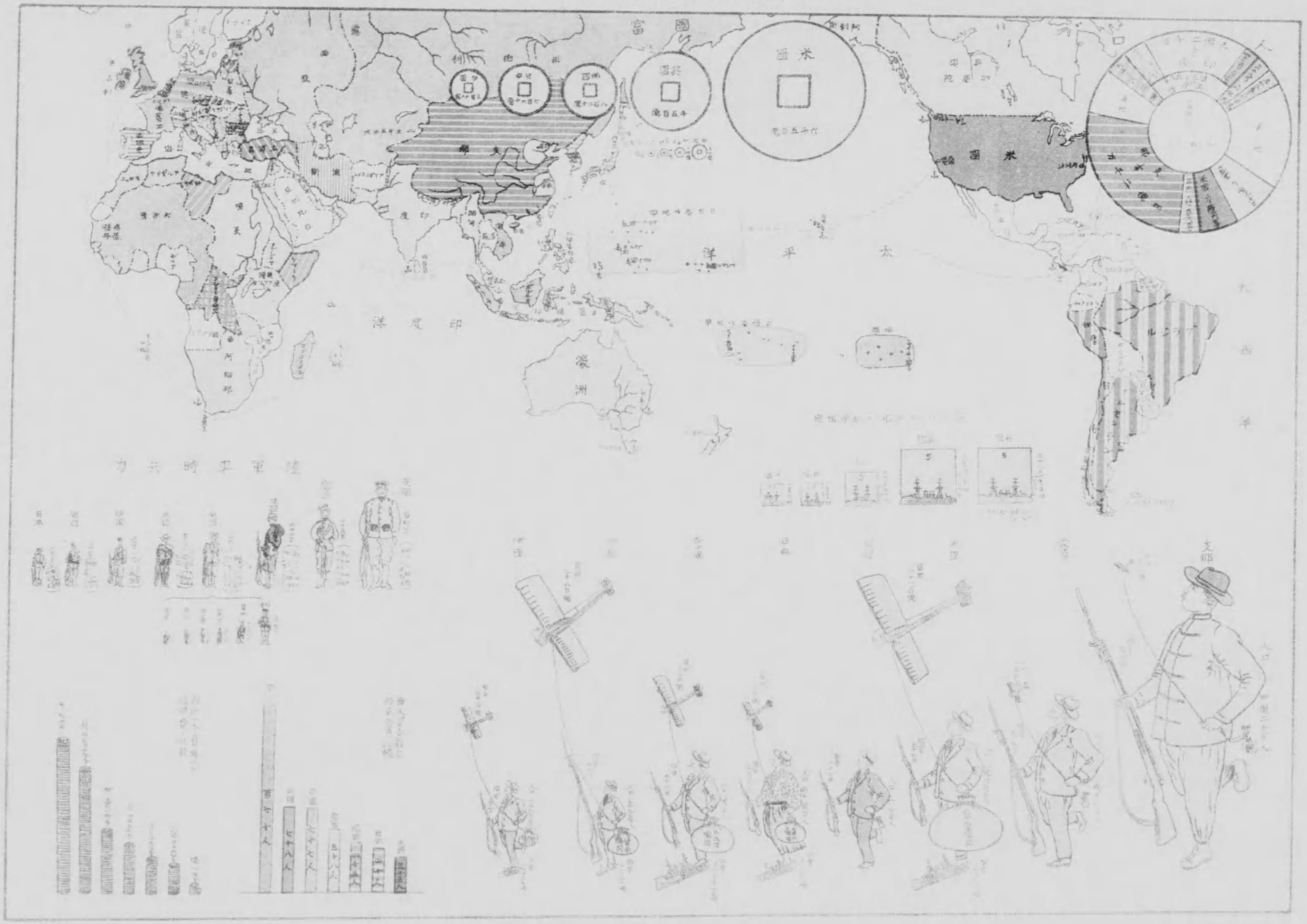


備考
一、メハ根據地

—(陸軍省)—

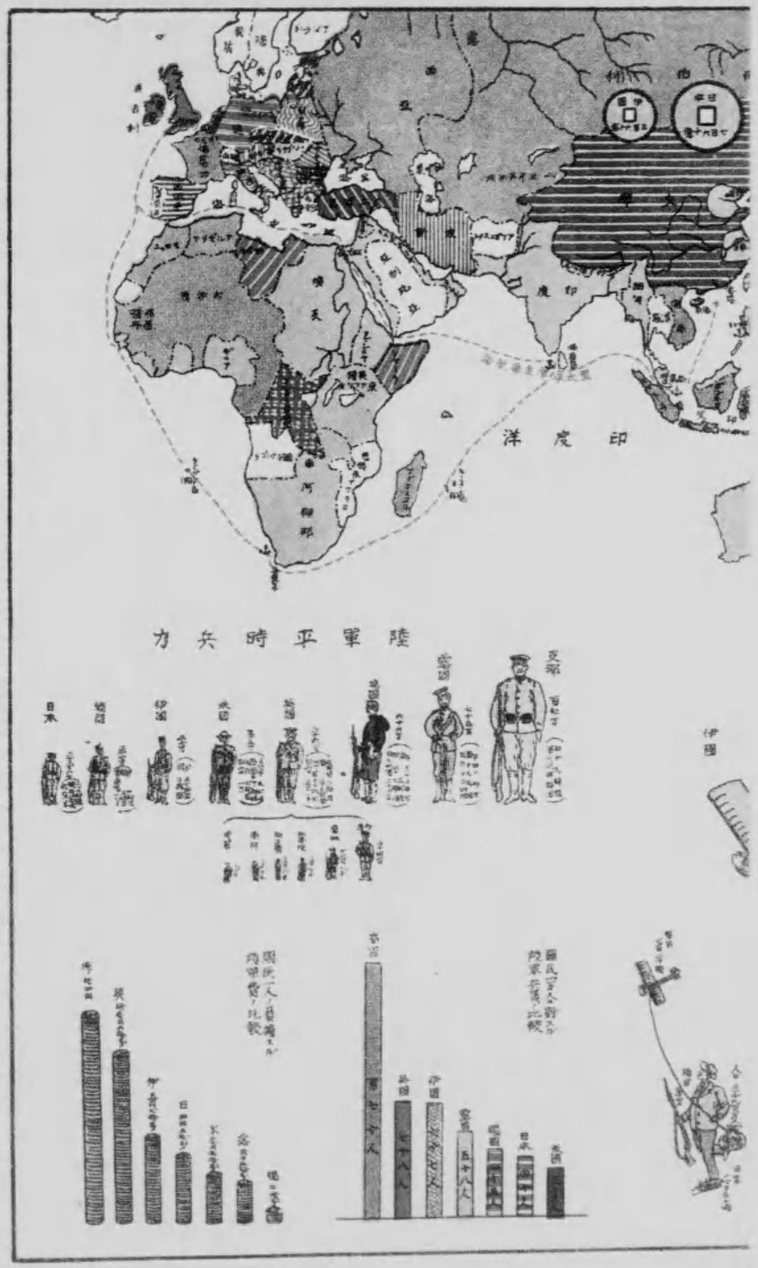
露光量違いの為重複撮影

列強軍備現勢一覧

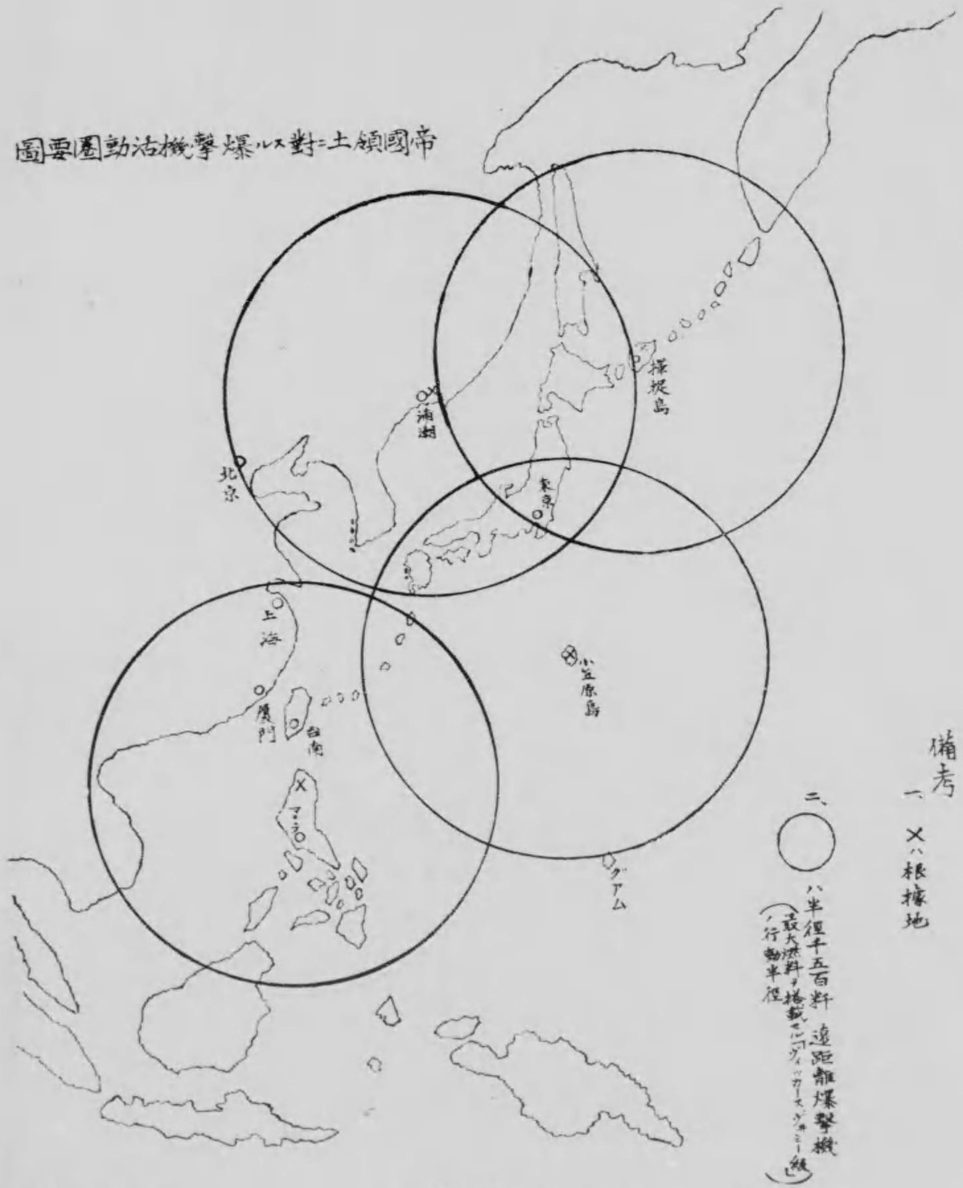


備考

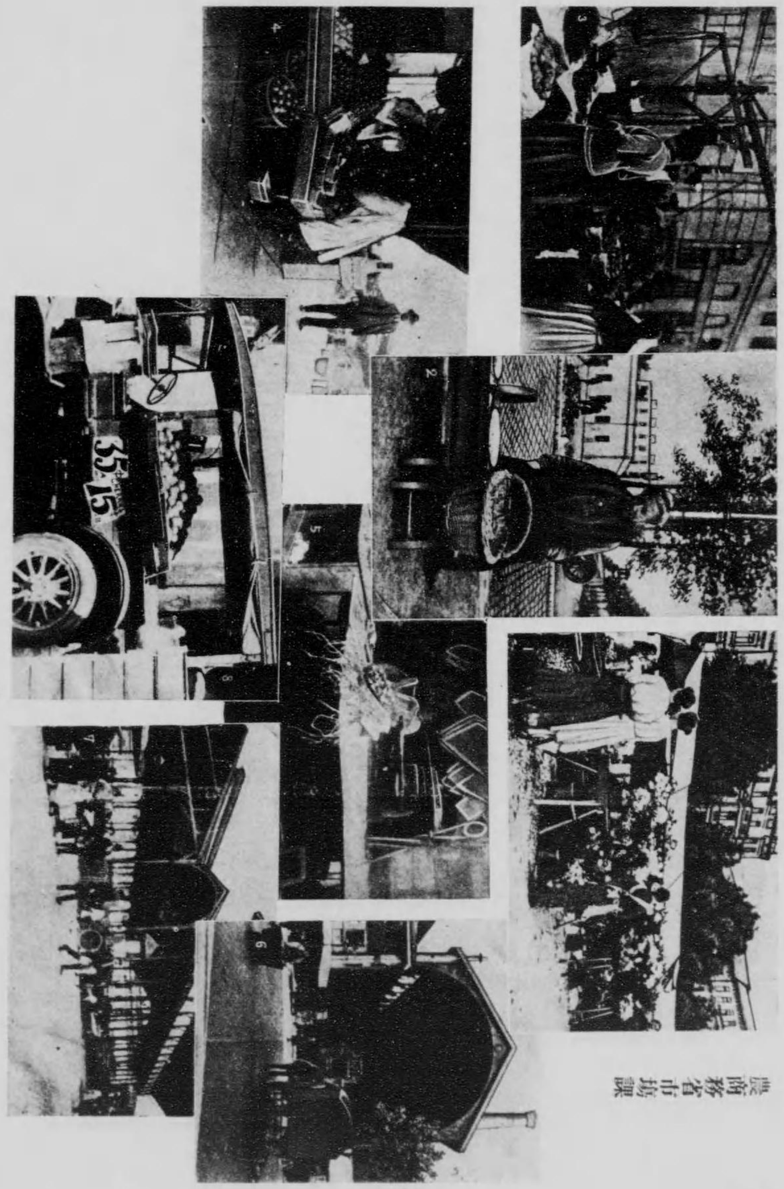
一　×八根據地



帝國領土ニ對スル爆撃機活動圏要圖



巡回市場米歐

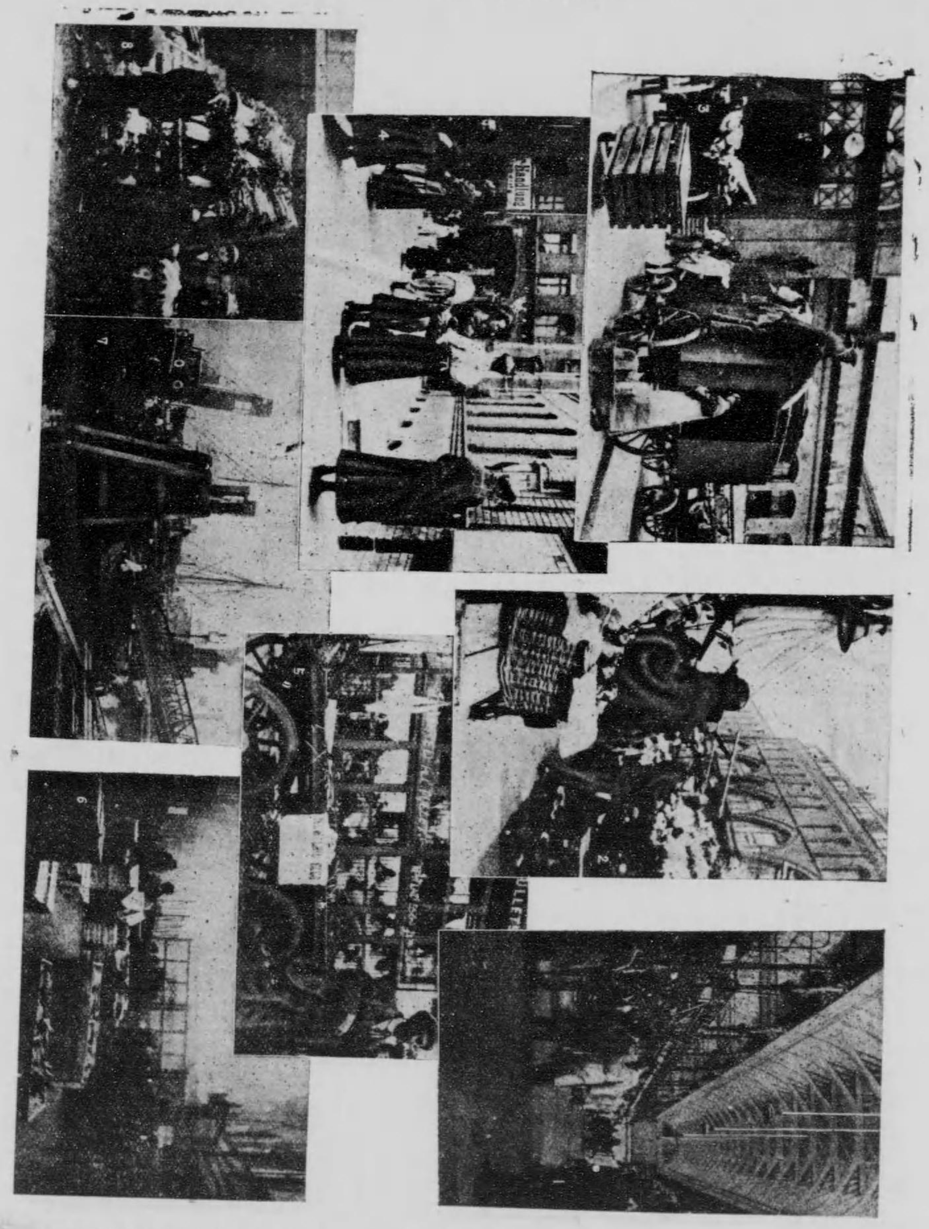


農商務省市場課

巡回市場米歐

(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)

(1) 巴黎市場の一部　(2) 同　(3) 巴黎豆腐屋のトロセロバのシイ～ス　(4) 巴黎市場の花の樣　(5) 同　(6) 巴黎小麦の場市シトシツ　(7) 巴黎市場の場市シトシツ　(8) 巴黎自由市場のスルセンアスロ



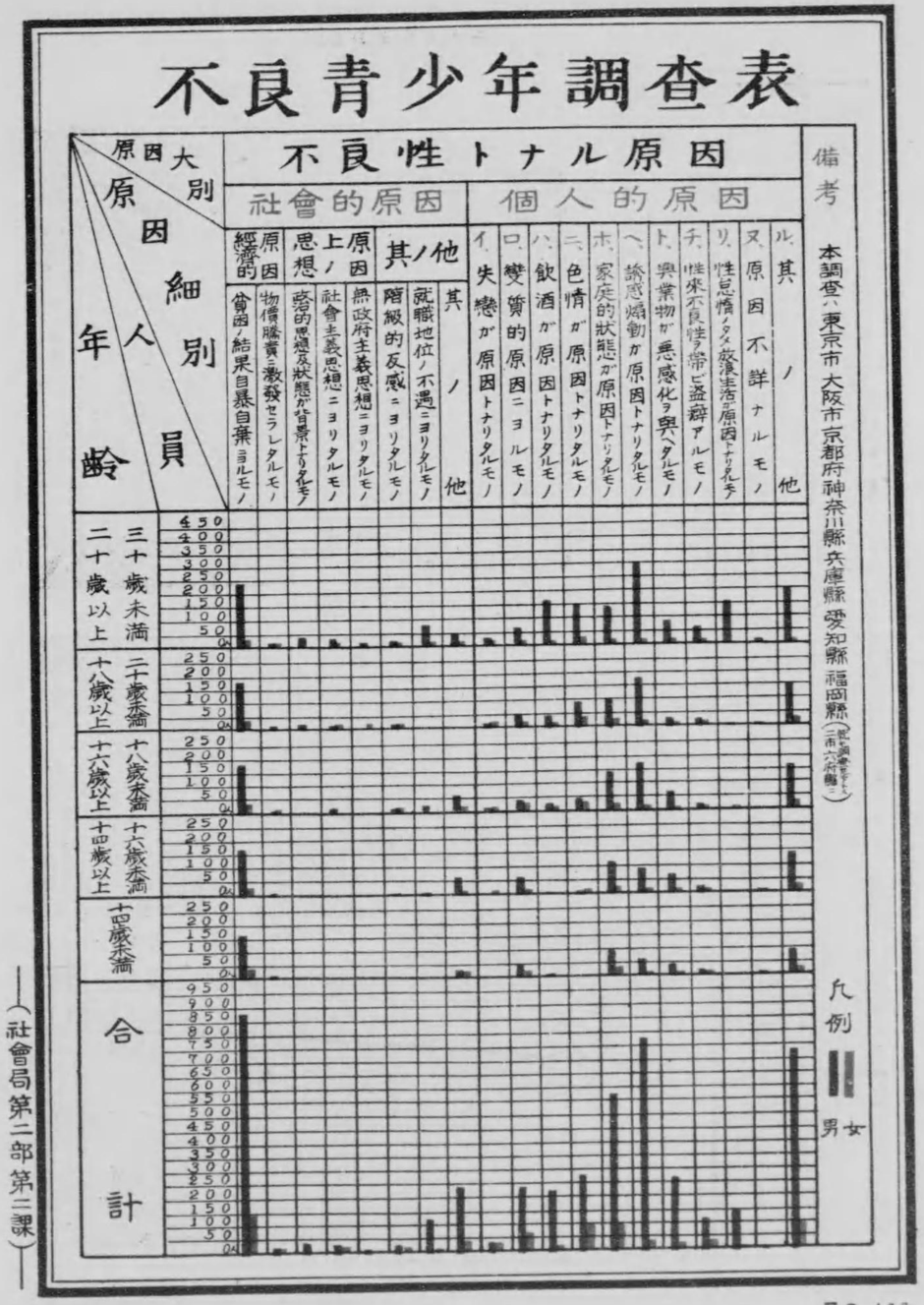
巴黎市場の一部

同上

巴黎市場の一部　(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)

(1) 巴黎市場の一部　(2) 同　(3) 巴黎市場の一部　(4) 同　(5) 巴黎市場の一部　(6) 同　(7) 巴黎市場の一部　(8) 同

不良青少年調査表



——（社會局第二部第二課）——

婦人相の三段變化

それでなくとも婦人はだん〳〵と動的な傾向をたどつてゐたが大震後殊にその傾向を高めた、そのどの方向を見渡しても。

——（中外商業新報社）——

仕事

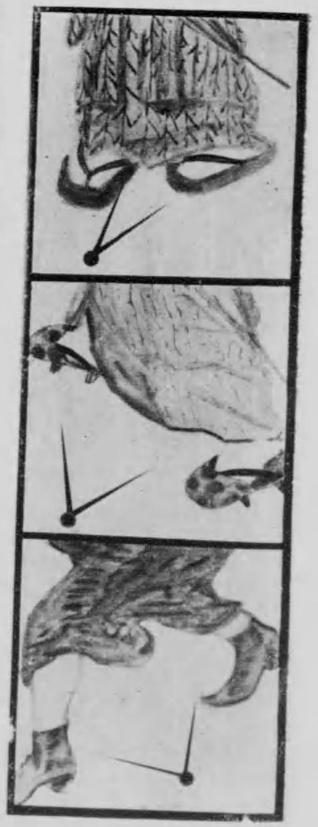
臺所

化粧

買物

乘物

歩み



大正十三年九月一日初版
大正十四年九月一日再版

圖錄「大震から復興への實狀」
定價八圓五拾錢

編纂者　株式會社　中外商業新報社
東京市日本橋區北島町一丁目三十六番地
發行者　岡田元太郎
東京市京橋區南大工町五番地
印刷者　岡田精弘堂
東京市京橋區南大工町五番地
印刷所

不許複製

發行所　東京市日本橋區北島町一丁目三十六番地
振替口座東京五五五番
株式會社　中外商業新報社

終